我が校のものがたり

―かけがわ学力向上ものがたり（別冊）―

掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを学校・家庭・地域で共通理解し、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「ものがたり」としてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を平成 26 年３月に策定し、以後、毎年度改訂を重ねています。

また、新学習指導要領完全実施と１人１台端末導入に合わせて策定した「かけがわ型ＧＩＧＡスクール構想」に基づき、これまでの授業改善の取組を大切にしながら、21 世紀を生き抜く子どもたちが「かけがわ型スキル」を身に付け、確かな学力を向上させていくために、ICT を活用した「新たな学びのスタンダード」を実践し、授業改革に取り組んできました。今年度は、令和３年度に策定した「未来を切り拓く３つの創る力　～『創像力』『創合力』『創律力』～」の育成を特に意識して、実践を重ねていきます。

各校においては、こうした方針を土台にしながら、児童生徒の学習状況や地域の特色を生かした独自の学力向上の方策を考え「我が校のものがたり」としてまとめました。これを基盤とした共通理解のもと、全教職員が組織的に協働し、実践と検証を積み重ねることで自校の課題解決を図っていきます。

さらに、学びを学校に閉じることなく、家庭や地域の力を生かし、学びの主体者である一人一人の子どもの生きる力を育む教育活動の充実に努めてまいります。

令和４年６月
掛川市教育委員会

目　次

頁

【小学校】

１　日坂小学校……２
２　東山口小学校……４
３　西山口小学校……６
４　上内田小学校……８
５　城北小学校……１０
６　第一小学校……１２
７　第二小学校……１４
８　中央小学校……１６
９　曽我小学校……１８
10　桜木小学校……２０
11　和田岡小学校……２２
12　原谷小学校……２４
13　原田小学校……２６
14　西郷小学校……２８
15　倉真小学校……３０
16　土方小学校……３２
17　佐東小学校……３４
18　中小学校……３６
19　大坂小学校……３８
20　千浜小学校……４０
21　横須賀小学校……４２
22　大渕小学校……４４

【中学校】

23　栄川中学校……４８
24　東中学校……５０
25　西中学校……５２
26　桜が丘中学校……５４
27　原野谷中学校……５６
28　北中学校……５８
29　城東中学校……６０
30　大浜中学校……６２
31　大須賀中学校……６４

小学校

掛川市立日坂小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇話し合いで積極的に発言したり、友達と関わり合いながら課題を解決していこうとしたりする姿が多く見られ、子どもたちの主体的な取り組みにつながった。
〇積極的に iPad を活用しようとする姿が見られ、活用の場面が増えた。
▲周りの意見に流されやすく、自分の考えを貫こうという姿勢があまり見られない。
▲素直に友達の考えを聞き入れてしまうため、友達の考えに疑問を感じたり、自分の考えと比べて聞いたりする力が弱い。

研修テーマ

進んでかかわり学び合う子の育成
～深い学びを引き起こす、主体的な学び合いのある授業づくり～
※栄川学園共通の研修テーマとすることで、目指す子どもの姿を園・小・中の 12 年で見るようにする。

研修の取組

1 「議論し、課題を解決していく対話」の設定

(これまでは)教師の求める答えを見つける場、単に答えを確認し合う場

各教科の見方・考え方を働かせる

対話の質の向上

(これからは)**自他の考えを関連付けたり、統合させたりしながら思考を深める場**

(1)対話を自分の考えを伝えるだけの場とするのではなく、「どうしてそうなるのか。」と自分とは異なる考えと向き合う場とし、考えを変容させたり、深めたりさせて創像力を高める。
(2)児童対教師の１対１の対話ではなく、アプリ等を活用し、短時間に各自の学びを共有・協働する等、多様な考えに触れながら学び合う iPad の活用で創合力を高める。
(3)「(1)(2)」の学びの場を意図的に設定し、主体的に学びに向かわせることで創律力を高める。

2 付けたい力を明確にした単元構想

(1)単元を見通し、児童が主体的に思考を働かせる学習課題を設定する。
(2)授業の中で、児童がやってみたいと思えるしかけを講じる。

特色ある学力向上への取組

基礎学力の向上

・ぐんぐんタイム(朝活動学習)
毎週２日間の朝活動で基礎学力の定着を図る。

・ぐんぐんテスト
年間２回国語・算数のまとめテストを実施し、基礎学力の定着を確認する。

・読書習慣
週に１回学校図書館を必ず利用する日を設け、本にふれる機会を増やす。

一人一台端末の活用

・校内研修でアプリ活用の実技研修をしたり、職員連絡や打合資料でアプリを活用したりすることで、日常的に教職員が iPad を使い、慣れる。この取組によって、授業での活用を増やしていく。

・各教室にプロジェクターと大型スクリーンを常設し、授業で端末を活用しやすい環境を整備する。

社会を意識した自己表現活動の充実

・対話タイム
毎週火曜日の朝活動を対話タイムとし、自分の考えが伝わる楽しさを実感できるようにする。

・かがやき発表会
積み重ねてきた学習の成果を発表する。

・iPad を活用した効果的な情報発信

・地域とつながる総合的な学習
３年「お茶」　４年「福祉」
５年「地域防災」　６年「東海道の歴史」

栄川学園３校１園の連携 (12 年間を見通した学習指導)

・各園・校での授業公開を行い、「育ちと学びのジョイントブック」を活用して、12 か年を見通した児童の姿で研修を実施する。

・学園共通の家庭学習の手引きを発行し、統一した指導を図る。

家庭学習の充実

○生活カードの活用
・家庭学習開始時刻の設定
・学年×10 分の学習時間を意識させるために学習時間を記入

○毎週金曜日の下校時刻を早めることで、帰宅してからすぐに学習する習慣付けを図る。

○発達段階に応じて反転学習を取り入れ、授業と家庭学習の繋がりを図る。

目指す姿

①自分から考えよう、解決しよう、表現しようとする姿

②自分と他者の考えを比べ、対話によって深める姿

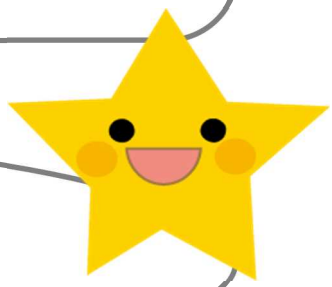
掛川市立東山口小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

【成果】
・これまでに身に付けた「見方・考え方」を使えば、新たな問題も自分たちで解決できるかもしれないと考えられる子どもが増えてきた。
・答えを求めることがゴールではなく、それまでの過程（どのように考えたのか）が大切だと考えられる子どもが増えてきた。

【課題】
・自分たちの力で統合・発展することまでは至っていない。また、そのための質の高い学び合いが十分にできているとは言えない。

研修テーマ



進んでかかわり学び合う子の育成

～教科の見方・考え方を働かせて学び合う授業づくり～

研修の取組

サブテーマ「教科の見方・考え方を働かせて学び合う授業づくり」を実現することが、研修テーマ「進んでかかわり学び合う子の育成」の達成につながると考える。達成のために、以下の３点を重点にして取り組んでいく。

１　内容ベイスの授業から資質・能力ベイスの授業への転換

「知識の獲得」から、概念としての知識を身に付け、統合的な理解へ（創像力）

２　身に付けた見方・考え方を働かせた学び合い

これまでの学習で獲得している各教科の見方・考え方を働かせて学び合い、互いに「深い学び」の獲得へ（創合力）

３　知的好奇心をもった子ども＝「探究心がある子ども」の育成

「考えたい」「解決したい」「伝えたい」「深めたい」が毎時間アップデートされる授業づくり（創律力）

このような授業づくりをしていくために、以下の２つの手立てを取り、研修を進める。

（１）ゴールに向かう子どもの思考を読み取り、授業をコーディネートしていく
（２）みんなで授業が深められるような、温かな学級の風土づくり

特色ある学力向上への取組

生徒指導部との連携

校内研修

学園との連携

PDCA サイクルを意識した子どもたちの手による授業づくり

・４月に、各クラスでめざす授業について話し合い、目標をたてる。学期の中間に振り返り、評価を行う。評価をもとに自分たちの授業を見直したり、次の学期の目標をたてたりする。

・クラスの目標を実現するために個人の目標をもち、一人一人が自分みがきをできるようにする。

・他学年のよいところを取り入れ、自分たちの授業をよりよいものに高めていけるよう、１つ上の学年の授業を見る。（見せ合い授業）

学びづくり部との連携

家庭学習の充実

・家庭学習を通して、主体的に学ぶ態度やよりよい学習習慣を身に付けることができるようにする。

・栄川学園共通の「家庭学習の手引き」を配付し、iPad を用いた家庭学習、「自主学習」に取り組むことで、自ら学びを求める子どもを育てていく。

１人１台の iPad 活用に向けて

・毎日少しずつ iPad を使う機会を取り入れ、使うことに慣れてきた。より効果的な活用方法を見つけられるように継続して使う。

・どのように活用したか紹介し合うなど、職員同士で学び合う機会を設ける。

地域との連携

地域コーディネーターの力を得ながら、教科の学習や総合的な学習の時間、クラブなどで、地域の方と関わったり、地域のことを学んだりすることで、地域についての理解を深め、地域を好きになる子どもを育てる。そうすることで、やがては地域に貢献しようとする態度を育てる。昨年度は、オンラインを通して地区の文化祭に参加した。

学園で進める研修

１園３校共通の研修テーマに加え、各園・校がサブテーマを設定し、そのテーマに向かって研修を進めていくことで、学園の目指す子どもの姿に近づけていく。年に２回合同授業研究会の機会を設け、学園の職員全体で研修に取り組み 12 年間を見通した教育を行う。

目指す姿

みんなで深める

探究心がある子
なぜ？どうして？　もっと知りたい！

自分で考える ⟷ 自分がわかる

掛川市立西山口小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇解決したい、考えたいと思う課題を提示するとともに、授業の導入や展開時に効果的に iPad を活用することで、子どもたちが「自分ごと」として取り組もうとする姿が見られるようになってきた。

△自分の考えをもち自信をもって話すこと、友達の考えをよく聞くことができるようになってほしい。

研修テーマ

「話して　聞いて　つながろう」

研修の取組

学びを実感する

- 自分の言葉でまとめる時間の保障
- レーダーチャートによる話す力・聞く力の振り返り

創像力　新たな価値の良さを知る

問いをもつ

- 自分ごととして考えることができる学習問題
- 具体的な子どもの姿をイメージ

創律力　自ら課題を見つけ、学ぶ

つなぐ

聞く

話す

考えを深める

- 話す力、聞く力を高めるための指導方法
- 活動形態の工夫（ペア・小グループ）
- ICT の活用

創合力　友達と力を合わせて

学びを支える学級づくり

話す力、聴く力の育成・言葉の指導

特色ある学力向上への取組

外国語活動

西山口小の３good を大切にしています

① Good Smile (笑顔)
② Good　Voice (大きな声)
③ Good　Reaction　（身ぶり・手ぶり）

「ふりかえりカード」を使用し、３つの項目ができたかどうか確認をし、子どもたちが意識して取り組めるようにしています。

Story time　の導入

絵本を購入し、読み聞かせを推進しています。

外国語教材を学年の単元ごとに揃えています。ALT･学年間の打ち合わせを大切にしています。

情報教育

- 各教科、道徳、特別活動等において、ICT 機器(ｉPad)を活用した授業を行います。
- 調べ学習の「テーマを決める→広く調べる→深く調べる→まとめる」の過程で、 コンピュータを活用していきます。
- 情報活用能力系統表（学園共通）や情報教育年間計画を活用し、基本技能の習得とプログラミング教育を通して ICT 機器を正しく使ったり、情報モラルについて考えたりする授業を行います。

読書指導

読書活動の充実

- 朝活動での読書
- 年間低 80 冊、中 50 冊、高 30 冊を目標に学校図書館の本を借りて読む。
- 読書の記録をカードに記入
- 毎月家庭での親子読書

図書ボランティアの協力

- 朝活動での読み聞かせ
- 本の受け入れ、装備
- 掲示や図書の整理

家庭学習

家庭学習カードには、本読みカードの要素に加え「家読」「親子読書」、掛東学園で取り組んでいる「わんわんわん」の要素を取り入れ、「わん…１日に１度、今日の出来事を家族で話す。」取り組みを行っています。また、各学年の学習時間の目安を提示し、宿題だけでなく、ｅライブラリやタイピング練習もできるようにしています。

学習・生活面の基礎基本の力を支えていきます。

目指す姿

- 課題を「自分ごと」として捉える姿。
- 相手意識をもって、話したり聞いたりする姿。
- 会話や対話を通して、学びをつなげようとする姿。

掛川市立上内田小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇素直な子が多く、与えられた課題等に対して真面目に一生懸命取り組む。
〇課題に対して「やってみたい！」という思いをもち、仲間と一緒に学ぼうとする。
△自分から「わからない」「解決したい」という思いをもち、発信する力を高めたい。
△感染防止の観点から、直接交流できる場が限られる中で、“自ら みんなと”考えを深めようとしたり、発展させようとしたりする粘り強さを育てたい。

研修テーマ

自ら学ぶ みんなと学ぶ授業づくり

～考え、伝え、つなげよう～

研修の取組

子ども主体の学びをつくるための「上内田小授業スタイル」を確立させる。

（1）学習問題の工夫
- ◎「～したい」が生まれる学習問題の工夫
- 〇子どもの発見や問いを促す活動の工夫
- 〇問いの明確化と、解決させるための見通しをもたせる工夫

（2）交流場面の充実
- ◎「伝え方・聴き方名人」の活用による伝え合いの充実
- 〇学びを促すワークシート等の工夫
- 〇子どもが考えを再構成できる板書の構造化

（3）ICT のより効果的な活用方法
- ◎タブレットによる提示の工夫
- ◎考えの共有と練り合いを促すタブレットの活用

「子どもの学びを見取る」ための土台（温かな学級風土）

〇学びに向かう姿勢づくり　〇学習規律づくり　〇学習環境づくり

特色ある学力向上への取組

めざす授業像の共有

・年度初めに、子供たちと学び合う姿の具体を話し合い、「自ら」「みんなと」のめあてを設定する。
・教室内に掲示し、日々の授業で価値づけながら成長を確かめていく。

家庭学習の充実（自ら学ぶ姿の推進）

・家庭学習の手引きを配付し、家庭と連携して習慣づくりを行う。
・掛東学園共通の取組である、毎月 15 日「わんわんわん運動」を実施する。
・自主学習で、ｅライブラリやタイピング練習等の活用を推進していく。

「伝え方・聴き方名人」の活用

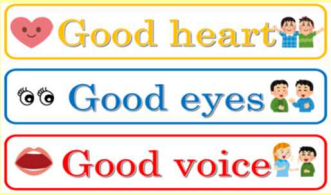
・発達段階に合わせた「伝え方・聴き方名人表」の効果的な活用を図る。
＊時季ごとに学びづくり部から提案
＊子どもの自己評価によるステップアップ

伝え方・聴き方名人　高学年

	伝える	聴く
7	☆説得力のある伝え方を工夫する。 根拠になる資料を用いて	☆相手の意見を参考にして、自分の考えを再構成する。 友達の意見も取り入れて
6	☆相手の反応を確かめながら伝える。 （反応を確認して）ここまでどうですか	☆自分の考えと比べて聴く。 自分との共通点、相違点
5	☆説明の順序を考える。 「まず」「次に」「さらに」「最後に」	☆相手の考えを要約する。 相手が言いたいことは～
4	☆相手の考えにつなげて伝える。 「同じで」「似ていて」 「付け足して」「違っていて」	☆質問をする。 ～について（くわしく）教えてください。 ～はどういうことですか。
3	☆結論を話した後、理由を伝える。 私は、～と考えます。 理由は、～からです。	☆反応しながら聴く。 うなずき、納得 再度説明を求める
2	☆相手に聴こえる声で、はっきりと伝える。	☆最後まで相手の意見を聴く。
1	☆自分の考えを発表する。	☆話し手の方を向いて聴く。

外国語活動、外国語の充実

・Ｅ－ＡＬＴとの打ち合わせの時間の確保と、掛川スタンダードの活用を推進する。
・振り返りの合言葉を全学年で統一し、３観点を子どもと共有する。



授業での一人一台端末の活用

タブレットを活用し、自ら調べたり、お互いの考えを共有したりして、みんなと学ぶ授業を充実させていく。

目指す姿

・授業で自ら課題に取り組んでいる姿（自分の力で解決したい！）

・授業でみんなと課題に取り組んでいる姿（みんなで解決したい！）

・授業や家庭学習で学習内容を定着させ、次の課題に取り組もうと学び続ける姿

掛川市立城北小学校
令和４年度　我が校のものがたり

１　子どもの実態

〇学習に、真面目に取り組む。
〇課題に対して、自分の考えをもったり、書いたりすることができる。
〇iPad の使用に慣れ、スムーズに使うことができる。
▲友達の発言から自分の考えを深めようとする力が弱い。
▲授業内の対話では、意見のはき出しが主になり、学びの深まりに欠ける面が見られる。

２　研修テーマ

学びが深まる授業　～iPad の活用～

３　研修の取組

（１）付けたい力・ねらいを明確にした授業
・学習指導要領や授業づくり指針が示す付けたい力に沿った本時の目標
・先を見通し、考えを収集・分析・整理・統合しながら、新たな価値を生み出そうとする力を引き出すような学習問題を提示する。（創像力）

（２）主体的・対話的に学び合う中で自己の学びを深める「学び合い」の実現
・グループの話合いや iPad の活用等を通して、多様な他者と力を合わせ、様々な視点から見つめ、試行錯誤しながら協合しようとする力を付ける。（創合力）
・自分の考えの深化した内容や、意見の変化等を発表し合う場をもつ。

（３）子どもが学びを実感できるふり返り設定
・本時の目標と学習問題と整合性ある「まとめ」
・自分を見つめ、次時への課題を見つけ、学び、行動し続ける力を付ける。（創律力）

4　特色ある学力向上への取組

【I チーム（ICT 推進リーダー）による校内研修の充実】

各学年の ICT 推進リーダーによる、ICT 研修。iPad の基本的な操作から、授業で活用できる機能までを伝達。

ミライム掲示板等においても、jamboard でのグループ活動例、スライドを使った全体共有の仕方などを職員同志が交流し合う。

魅力ある授業づくりを創像力育成へとつなげる。

【スタートカリキュラムの実施】

幼児期に育った自立心や共同性をより自覚的な遊びへと発展させる生活科の学習の実践。

学校の全職員がスタートカリキュラムを共有し、学びのつながりをイメージする。

【ICT 活用の推進】

創合力の育成を目指し、ICT 活用は目的ではなく、学びを深めるための手段として位置づける。個で深めたり探究したり、他との交流を促進させるツールとして使用したりする。

【学校での学びを家庭学習へつなげる】

子どもが次の「問い」に向かうことができるように、Classroom で課題を送ったり、学習内容に合った資料を添付したりする。

家庭と連携して、創律力を高めていく。

【冀北学園一貫教育研究会】

冀北学園でのつながりを意識し、学園内での授業公開や小中一貫した「かけがわ道徳」の実施に取り組んでいる。

5　目指す姿

○生きて働く知識・技能を身に付け、合科的・関連的に考えようとする姿。
○なめらかな接続カリキュラムにより、自分の発達に喜びを感じ、安心して学ぶ姿。
○友達との関わり合いを通して、複数の考えから、より適切なものを判断する姿。
○身に付けたことを使って、新たなものを創造しようとする姿。

掛川市立第一小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

成果
・1人1台端末に対する抵抗感が少なく、ツールとしての活用が図れた。
・子ども1人1人が「協働的な学び」において、豊富な実践を積めた。
課題
・端末を使った学習を豊富に行ったが、子どもの話す・聴く・深める力が定着していない。より効果的な活用方法の検討。

研修テーマ

「ともに学び合う」
～1人1台端末を効果的に活用した学び合いの授業づくり～

研修の取組

1人1台端末を効果的に活用した学び合いの授業づくりになっているか

① 夢中になって学び合う、魅力ある学習問題（「掛一ジャンプ」）であったか
・1人では解決できず、学び合いながら探究していけるような学習問題を設定することで、多様な考え方が出たり、粘り強く取り組んだりできたか検証する。単元を通して ICT の効果的な活用を目指す。

② 効果的に活用した学び合いを目指して
・未来を切り拓く「3つの創る力」を授業づくりに生かし、他者と協働しながら、主体的に考え、新たな価値を生み出し、学び続けられる子を育む。

特色ある学力向上への取組

～1人1台端末の活用～

令和3年度から導入したタブレット端末を有効的に活用できるよう、研修を深めた。

昨年度は「1人1台端末の可能性の探究」を目指し、取り組んできた。課題は山積だが抵抗感なく、どの学年も取り組むことができた。

～ICT を効果的に使った協働学習の実践～

コミュニケーションの伝達のスピードをあげるメリットがあるとされるタブレット端末を、より効果的に活用するための実践が各学年で行われている。

令和4年度は「1人1台端末の挑戦」と題し、児童・教師ともにスキルをさらに磨いていける実践を行いたい。

～家庭と繋がるために～

第一小学校では「かけがわ家庭の学びグランドデザイン」を参考にしながら家庭との繋がりを大切にしている。例として、1年生ではスタートカリキュラムを作成し、様々な芽生えを支援できるようにしている。また家庭学習では「10秒大好きぎゅう」などを取り入れるなど、各学年の発達段階に合わせた内容になるよう配慮している。

目指す姿

～志をもち進んで考動できる子～

・ICT を有効に活用し、自己の可能性を見いだし、よりよい自分を目指し他者と協働しながら、主体的に考え、学び続けられる子。

掛川市立第二小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

令和３年度 研修テーマ「根拠をもって判断し表現する力を育成する授業づくり」の成果と課題

○全教科で研究授業を行うことにより、各教科独自の根拠が明確になった。

○既習事項の掲示など根拠を見出す材料を教師が工夫することによって、子どもたちは根拠をもって自分の考えをつくることができる場面が増えた。

○根拠を見出すことで自分の考えに自信をもって発言をしたり、意欲的に活動に取り組んだりする姿が見られるようにになった。

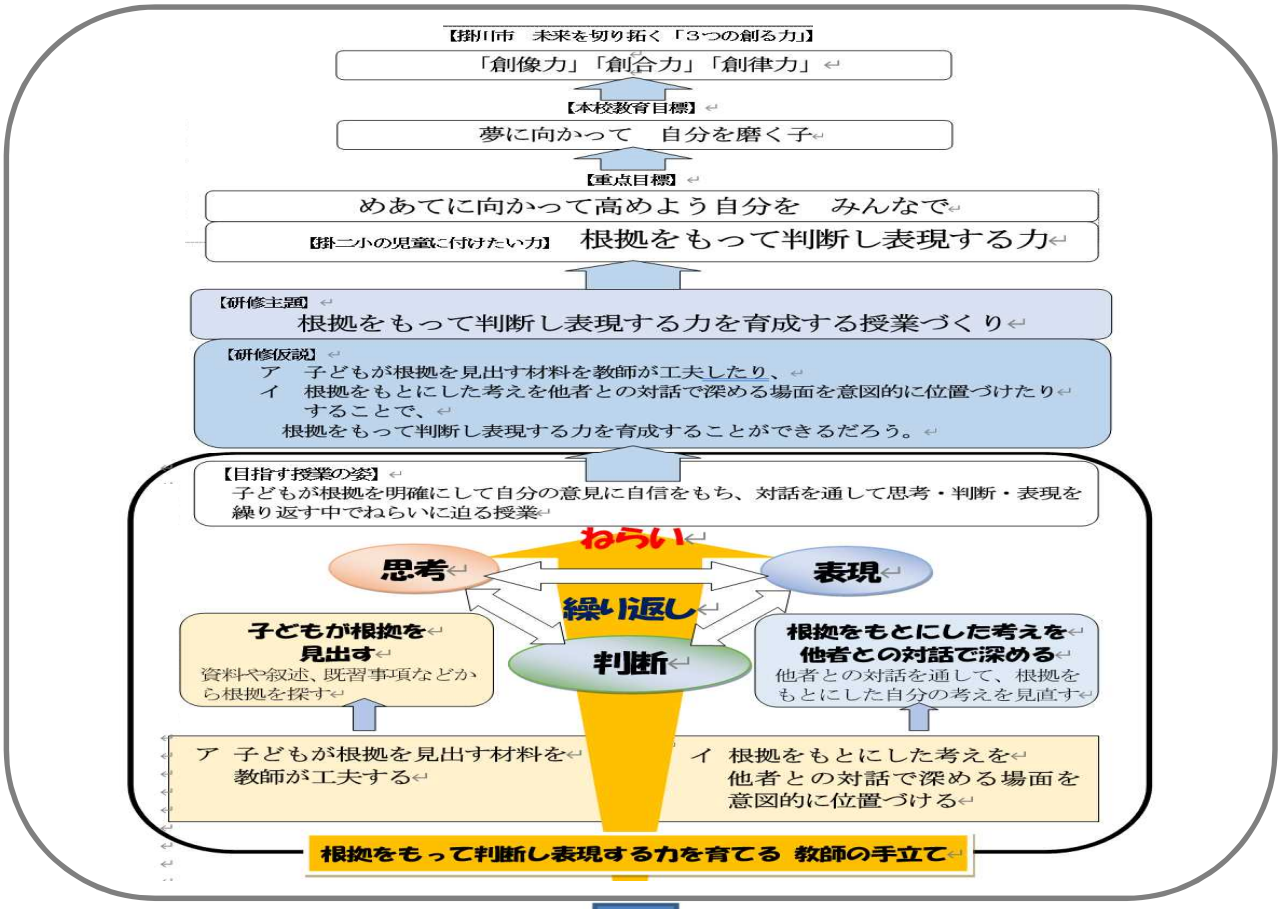
▲他者との対話の場面では、根拠を基にした自分の考えを相手に伝えるだけで、学習課題に迫る練り合いがまだできていない。

▲「判断」については様々な場面があり、本校の研修で目指していく具体的な姿の共通理解が不十分である。

研修テーマ

根拠をもって判断し表現する力を育成する授業づくり

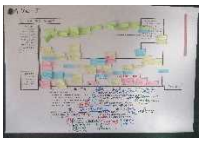
研修の取組



特色ある学力向上への取組

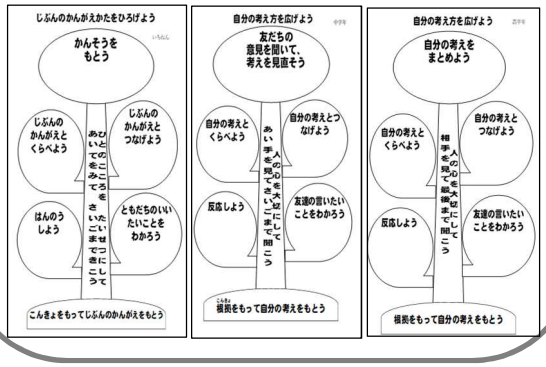
重点目標：掛二小の児童に付けたい力に向かうカリキュラムマネジメント研修

本校では、一昨年度より教育センターの指導の下、カリキュラムマネジメント研修を行っている。掛二小の児童に付けたい力を「根拠をもって判断し表現する力」とし、研修テーマを「根拠をもって判断し表現する力を育成する授業づくり」と設定した。既習事項や生活経験、写真や表、グラフなどの資料を根拠にして自分の考えをつくり、他者との対話を通して「思考・判断・表現」を繰り返す中で本時のねらいに迫る授業を目指している。教員一人一人が研究する教科を決め各教科の教育センターの教育主査と授業研究を行う中で各教科における根拠や根拠をもとにした考えを他者との対話で深める手立てを更に追究していく。



学び方の木：人の心を大切にして相手を見て最後まで聴く力の育成

本校では今年度から「学び方の木」を各学級に掲示し、自分の考えを広げるための段階や目指す姿を子どもたちと共有している。授業で表れたよい姿を具体的に書き足したり認めたりしていくことで、根拠をもって判断し表現する力の育成につなげている。

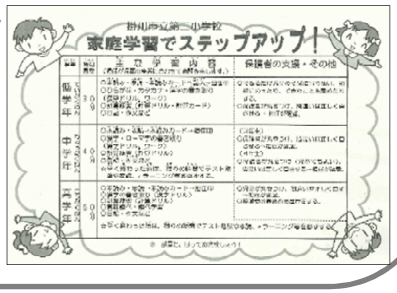


一人一台の iPad を活用した授業づくり

本校では、一人一台の iPad を授業の中でどのように活用するかを研究の一部としている。校内研修の中で、活用の仕方を研修したり実践を発表したりしている。実践例として、算数でブロックアプリを使い、かたまりがバラになる感覚を身に付けたり位取りを意識した筆算の計算を行ったりした。理科では、カメラのタイムラプスを使い、雲の動きを視覚的に捉えられるようにした。今後も研修を重ね、有効な実践を積み上げていく。

家庭学習の充実・家庭との連携

「家庭学習の目的とポイント」「家庭学習でステップアップ」を全児童に配付し、家庭での学習習慣と学習内容の定着を図っている。３～６年生には、週末の家庭学習に自主学習を取り入れ、自分の関心があることを追究したり、写真や表などを入れて根拠をもとにまとめたりするなど子どもが自ら学び、進んで問題解決に取り組む場面を位置づけている。また、読書活動の推進として「家読」（家での読書）や「読書推進週間」（親子読書）など、対話を通して親子でふれあう時間を大切にしている。



かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用について

郷土の偉人や文化等を取り入れた掛西学園かけがわ道徳系統表を活用している。また、iPad を活用した個別最適な学び、協働的な学びの展開を充実していくために、Google Classroom を活用して資料を配付したり課題を提出させたりしている。今後は更に「かけがわ型小中一貫カリキュラム」を活用し、発達段階や教科の系統性を意識した授業改善を図っていく。

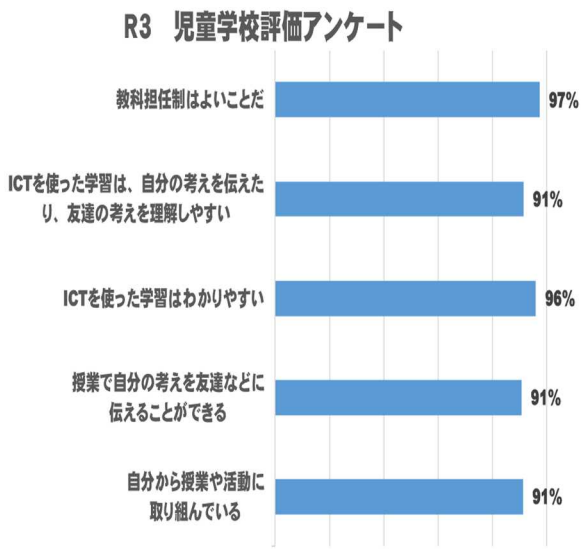
目指す姿

【根拠をもって判断し表現する児童】

子どもが根拠を明確にして自分の意見に自信をもち、対話を通して思考・判断・表現を授業の中で繰り返し、「根拠をもって判断し表現する」姿を目指す。

掛川市立中央小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態



校内研修における成果と課題

【成果】
・「子供中心の授業づくり」や「様々な観を転換する必要性」についての教師の理解が進むにつれ、児童が主体的に課題に向き合い、他者と対話しながら課題を解決する姿が見られるようになってきた。
・Teams を活用して授業と家庭学習を結び付けたり、iPad も新しい学びに適した効果的な使い方をしたりすることができてきた。

【今後の課題】
・子ども中心の授業づくりをするために、どんな単元を貫く課題とするか、問いや資料をどうするか等、教材研究や授業準備の質を上げていく。
・理論と実践をつなげ、教師が自信をもって実践を積み上げられるようにしたい。

研修テーマ

学びを深める子の育成
～子ども中心の授業づくりを通して～

研修の取組

・教師が用意した唯一の正解にたどり着くことを目標とする『目標到達型授業（後向き授業）』から脱却し、目標到達に至る対話の過程で新たな問いが生まれ、目標を再設定しながら学び続ける『目標創出型授業（前向き授業）』へと観の転換を目指す。
そのことにより、本校の子どもにつけたい資質・能力である「思考力」「問題解決力」「意思決定力」「コミュニケーション力」の育成を目指す。
・学習者中心の主体的な活動の時間に重点を置く単元構想の工夫（単元デザイン）に取り組む。
・一人一台 iPad を生かし、授業における ICT 活用の研究を進める。
・教科チーム（国・社・算・理・英）に所属し、教科チーム研修で授業改善に取り組むことにより、教科の強みや専門性を生かした授業を展開する。→子どもの学力向上につなげる
・全体研修や日々の学年研修等で、各教科部の取組を報告し合い、全職員・学年間の共通理解を図る。
・年３回、外部講師を招聘し、指導を仰ぐことにより子供観・授業観の転換を図る。

特色ある学力向上への取組

高学年教科担任制の導入

・５・６年生では国語、社会、算数、理科、外国語、家庭科、音楽の７教科で教科担任制を導入している。（４年生も一部導入）
・３学級の授業を担当することで、教材研究や授業準備を効率的に行うことができ、授業改善につながっている。
・「学級担任」から「学年担任」への意識の転換で、生徒指導面でも成果を上げている。

教科チーム研修
　国語・算数・社会・理科・外国語の５つの教科チームを設定。高学年は教科担任制で担当する教科チームに所属する。１～４年・級外職員もいずれかのチームに所属する。

６年教科担任制　受け持ち授業一覧

	６の１	６の２	６の３
国語	６の３担任Ａ	６の３担任Ａ	６の３担任Ａ
社会	５の３担任Ｄ	５の３担任Ｄ	５の３担任Ｄ
算数	６の１担任Ｂ	６の１担任Ｂ	６の１担任Ｂ
理科	６の２担任Ｃ	６の２担任Ｃ	６の２担任Ｃ
英語	特別支援学級担任Ｆ	特別支援学級担任Ｆ	特別支援学級担任Ｆ
音楽	６の３担任Ａ	６の３担任Ａ	６の３担任Ａ
図工	級外職員Ｇ	６の２担任Ｃ	級外職員Ｇ
家庭	級外職員Ｅ	級外職員Ｅ	級外職員Ｅ
体育	６の１担任Ｂ	６の２担任Ｃ	６の２担任Ｃ

※総合、道徳、学活は学級担任が受け持つ

ＩＣＴを活用した授業づくり

・前面ホワイトボード・可動式プロジェクター、全館無線 LAN 環境の有効活用
・児童の対話の質の向上をねらいとした、ICT 活用研修の推進
・デジタル教科書の利用研究
・授業支援ソフトの導入

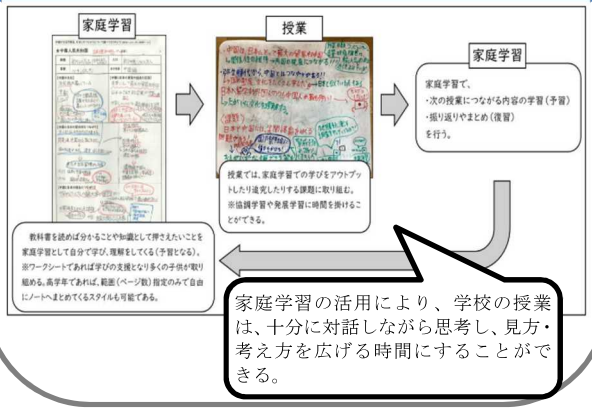
６年算数：iPad で共有した考えを見て、振り返りを行う姿

◇iPad 一人一台端末の活用◇

・登校したら、授業準備として各自、机に置く。子どもは授業において、調べ学習に使用する等、必要に応じて活用する。
・ドリル学習を個々の能力に合わせて活用する。
・端末持ち帰りによる、学習ドリルと連動した家庭学習を行う。
・活用能力向上のため、休み時間や帰り等の隙間時間を使ってキーボード入力練習を行う。
・クラウドを利用し、個の学習を全体で共有したり、学習記録をデータとして蓄積したりする。

授業とつながる家庭学習

・次の授業の課題について、内容をつかみ、家庭で「調べる」「考えをもつ」「既習の内容の復習」等の学習準備をし、授業ではその知識や技能の活用ができるようにする。
・授業後には「まとめ・振り返り」「復習」「新たに生まれた問いに向けた考えづくり」等を行い、次の授業へつなげていく。



コミュニケーショントレーニング

◇ねらい◇
　人間関係を築くコミュニケーションのあり方を身に付けさせるとともに対話の素地を養う。よりよい話し方や聴き方を意識化する。（特に聴き方の指導に重点を置く。）

・活動時間は 10 分。週に１回朝活動等で行う。
・一つの話題について、話し手役と聴き手役を交代しながら話したり、聴いたりする。
・コミュニケーション活動の話題例
　ステップ１：好きな食べ物・好きな言葉
　ステップ２：もしタイムマシンがあったら？
　ステップ３：苦手な教科を得意にするには？

小中一貫教育カリキュラムの活用

・掛川市として重点的に取り組みたい指導項目を捉え、具体的な活動・発問例を参考に授業改善を図る。
・掛西学園研修会で学園としての特色ある取組を話し合う。

目指す姿

「子ども中心の授業」を通して
・「自分で答えをつくる」姿
・「他者と考えながら関わり、自分の考えを少しずつ深める」姿
・「学んだことから次の問いを生む」姿
・「答えや答えの出し方について、人との違いに価値を置く」姿

掛川市立曽我小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇1人1台端末の導入により、児童が課題に取り組む手段としての活用の幅や、個に応じた支援の幅が広がった。
〇家庭での学びと学校での学びをつなぐことで、協働的に学ぶ学習内容のための時間確保ができるようになった。
●児童は「学びたい」という意欲より「やらされている」という意識の方が強い。
●すぐにあきらめてしまったり、成長の実感が持てなかったりしている。

研修テーマ

主体的に学びを深める子を育成する授業づくり

研修の取組

研究仮説：教師が付けたい力や育成したい資質・能力を明確にした上で、児童の思考の流れをイメージしながら学習者主体の活動を位置づけた単元構想を練り、指導と評価の場面において適切な言葉がけ（切り返しや称揚など）をすることで、主体的に学びを深める子どもが育つだろう。

【内容】
・「学習者主体の活動を位置付けた単元構想の工夫」「指導と評価の言葉がけ」「ICTの有効活用」の3つの柱に力を入れて取り組んでいく。
・「主体的に学ぼうとしていたか」「学びが深まっていたか」の視点を、子どもの姿で話し合い、事後研修を深める。

【方法】
・ぷらっと授業参観 week を年3回ほど設定し、各学級の実践を見合い、さまざまな手立てを共有する。
・研修教科は自由とし、有効だった手立てを日常的に共有する。

特色ある学力向上への取組

個人・学級の振り返り

・児童に、達成感や成長の実感を持たせ、学びの意欲の向上につながる振り返りの時間を設定する。
・教師が目指す授業像を明確にし、学級の課題を明らかにし、より良い指導につなげる。

トークトレーニングの実施

・毎週金曜日の朝活動で10分間、コミュニケーションスキルの向上を目指したトレーニングを行う。
・「聞くこと」に重点を置き、楽しい雰囲気の中で実施する。教師は良い聞き方をたくさん見つけて褒める。

共に高まる見せ合い授業

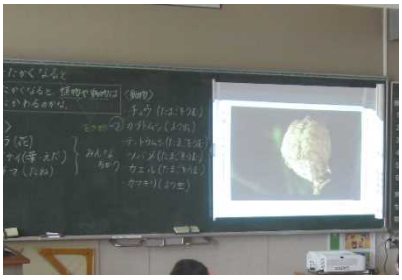
・子どもたちが1つ上の学年の授業を見る機会を設ける。
・教員同士も「ぷらっと参観」で、お互いに授業を見合い、意見を交換しながら、学び合う週間を設ける。

小中一貫教育に向けて

・掛西学園の研修共通テーマである「聞く・話す」の徹底に向けて、週に1回、話すコミュニケーショントレーニングを行う。
・6年生の中学進学に向けて、子どもたちが授業や生活について、知る機会を与える。

ICT の有効活用

・全学級にプロジェクターとスクリーンを常設。
・児童の iPad と同じ画面を提示したり、大きく映したりすることで視覚支援を促す。
・積極的な iPad の活用を図り、さまざまな使い方を探る。
・e ライブラリの活用を家庭にもお便り等で知らせる。



目指す姿

主体的に学びを深める子

・自分で粘り強く考える姿。
・他者と関わりながら学びを深める姿。
・学んだことから、新たな疑問が生まれる姿。
・学びの実感を得て、さらに学ぼうとする姿。

掛川市立桜木小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

・出された問題や取り組むべき活動に対して真面目に取り組むことができるが、自ら問いをもち考えようとする子どもは少ない。
・小グループの中で、自分の考えを積極的に話していても、伝える力が定着している訳ではない。
→これまでは、教師が、どの子も進んで追究させようと考えるあまり、必要以上に手を出し過ぎていた。教師が、分かりやすく考えやすい発問をするあまり、子どもが教師を頼っていた。そこで、評価基準を共有することで、子ども自身が、何を目指せばよいかが分かり、自らの力で課題を解決しようとする授業が実現するだろう。
⇒自ら学ぶ子の育成

研修テーマ

自ら学ぶ子の育成
～子どもが、自らの力で解決に向かう授業～

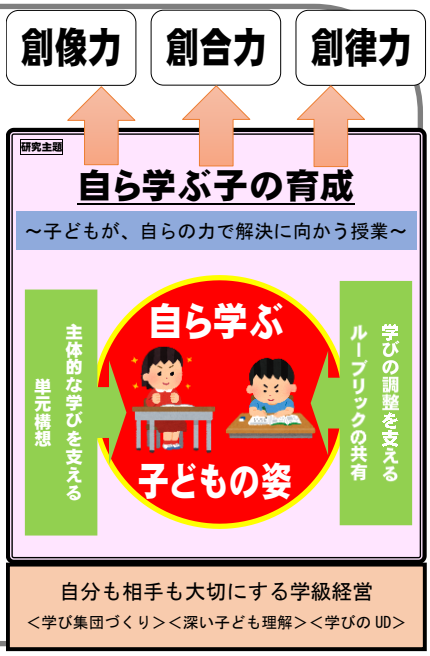
研修の取組

「自ら学ぶ子」を育成するために、自らの力で解決に向かう授業をすれば、「創像力」、「創合力」、「創律力」を高めることができると考える。

【研修の手立て】

柱①　主体的な学びを支える単元構想
・ 学び手の視点で、単元を構想する。
・ 対話の指導をする。国語で身に付けた対話する力を、他単元、日常的な活動、他教科、他学年、学校、地域に発信する。

柱②　学びの調整を支えるルーブリックの共有
・ 子どもの主体性を育てるために、子どもの思考に沿った評価基準を子どもと教師が共有する。



特色ある学力向上への取組

１人１台ｉＰａｄの積極的な活用

どの教科でも、積極的にタブレットを活用する。

Google のアプリ「Jamboard」を使用することで、自分の書き込みを友達の iPad にも反映させ、協働学習がより活発になるようにする。

「Keynote」を使用した発表や、「Google スライド」を使った振り返りなど、日常の授業で繰り返しタブレットを使うことで、学びを深める手立てとして学習に活用できるようにする。

小中９年間を見通したカリキュラム

○専科教員による外国語の授業
○育みたい価値を明確にした道徳教育
○地域を知り、地域とつながる総合的な学習の時間
○自分の生き方を見つめる「キャリアパスポート」の活用

しなやかな心を育てるレジリエンス

○自分のよさを認める「こころの健康手帳」の活用
○桜が丘学園共通「健康の日」によるレジリエンス体験
○行事を通して、友達のよさを見つける活動

学校と家庭とのつながりを意識した家庭学習

学校　　家庭

各教科の学習の基礎・基本の定着（音読・漢字・計算）

知識・技能の習得 ⇒ 復習による確実な定着

意見交流を核にした授業

考えの深化・拡充 ⇐ 自分の考えの形成

知識を増やし、心を耕す読書活動

朝読書・おすすめの本の紹介 ⇔ 毎日１０分の家読（うちどく）の推奨

※桜が丘学園共通「家庭学習の手引き」による学力向上への取組

目指す姿

自ら学ぶ子（自らの力で解決に向かう子）

掛川市立和田岡小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇子どもたち自身で課題を見付け、解決方法を考えていくことができた。
〇ICT を活用しながら、自分の考えをもとうとすることができた。
▲基礎的な知識・技能の習得や既習事項を活用して問題を解くことが苦手。
▲自分の考えを伝えようとする意思が弱く、多数派や積極的に発言する子の意見に流されてしまう。

研修テーマ

理由や根拠をもって対話する児童の育成
～主体的で対話的な学びができる児童を目指して～

研修の取組

研究仮説
　児童が根拠を見出すための工夫（理由や根拠を考えさせる学習課題・問題の設定、考える視点や材料の用意）を図ることで、理由や根拠をもって対話する児童の育成につながるだろう。
研究内容
「児童が理由や根拠を見出すための工夫を図る」
　①理由や根拠を考えさせる学習課題・問題を設定する。
　　→生活経験を元にしたり、常識とのギャップから問題を設定したりすることで児童の「どうして」や「なぜ」を引き出し、主体的な活動につなげる。
　②考える材料や視点を明確にして、用意をする。
　　→本時の問いと既習事項や必要な知識・技能とのつながりを授業者が明確に理解する。また、切り返し発問や図・具体物などを用意し、考える手立てを与えることで、根拠のある意見をもち、他者との対話や協働学習につなげたい。

特色ある学力向上への取組

学級で話合いができる土台づくり

（１）研修内容に合わせためざす授業像

・「理由や根拠をもって話し合う」ことを担任が把握した上で、各クラスでどんな授業をしたいのかを話し合う。

（２）子どもが発した言葉でつくることばの宝箱

・児童が友達の意見とつなげる発言や比較する発言、反応など協働につながる言葉を担任が抽出し、ことばの宝箱に掲示し、価値付けする。

理由や根拠に自信をもつ

（１）個に応じた指導～わくわく学習タイム～（毎週火曜日の朝活動）

・国語、算数に焦点を当て、新しい学びに必要な既習事項の確認を行い、レディネスの形成を確実に行う。

（２）たしかめテスト

・長期休業前に、学力の定着を確認する。結果に基づき、補充学習を行う。

一人一台端末の有効的な活用

（１）家庭と学校の学びをつなげる活用

・iPad を活用し反転学習を意識した家庭学習を設定する。

例）e ライブラリ、Jamboard の活用や動画視聴で自分の意見を形成してくるなど

（２）自分の意見や立場を明確にする

・使用目的に合ったアプリを選択し、自分の考えを視覚化したり、協働作業を行い、話合いを通じて思考を深めたりする。

本音で語る道徳科

（１）板書写真を見合う会や発問研修の設定

（２）年数回のミニ授業参観の設定

（３）保護者・地域と共に育成する道徳性

かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用

（１）単元計画作成時の活用

（２）指導案検討時の活用

（３）授業改善時の活用

目指す姿

めあてやこだわりをもって学習に取り組む子の育成

掛川市立原谷小学校
令和4年度　我が校のものがたり

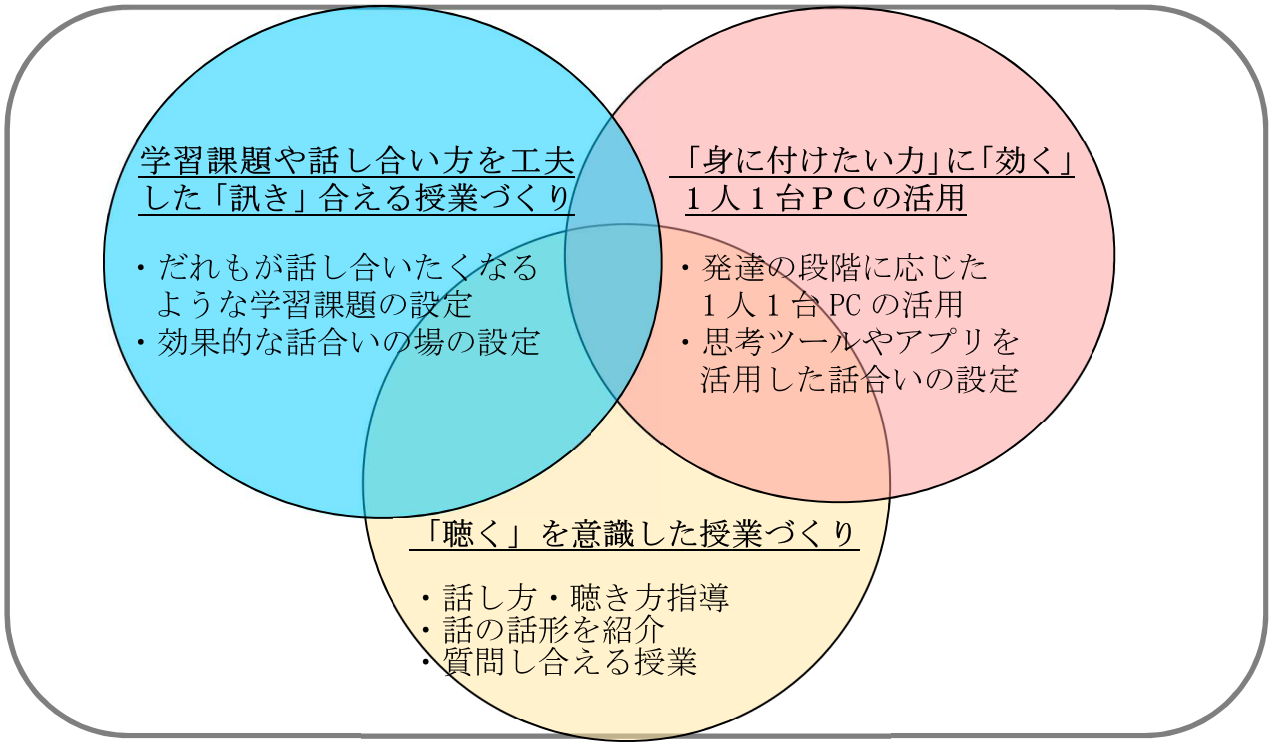
子どもの実態

○前向きに学習に取り組む児童が多い。（授業が楽しい、授業がよく分かる）
○児童が１人１台ＰＣを学習に積極的に活用できるようになった。
○児童が１人１台ＰＣを授業以外にも活用するようになった。
△学習における知識・技能の活用、応用力が不足する。
△学力格差が大きい。

研修テーマ

１人１台ＰＣを使った　“きく”　授業

研修の取組



特色ある学力向上への取組

◆「話し方・聴き方指導」の徹底

・話し方指導
声の大きさ
話の繋げ方
特活、総合との繋がりを意識する。

・聴き方指導
姿勢
うなずく
反応する

◆一人一台の iPad の活用について

・学年に応じたｉＰａｄの活用
低学年→写真を撮る、Jamboard で
イラストを動かす、絵を描く
中学年→Classroom にコメントする、
google ドライブを活用する
高学年→スライドやスプレッドシート、
ドキュメントにまとめる

・思考ツールの活用

↓

習得した知識の活用
話合い活動の充実

◆学習習慣の確立

・正しい姿勢指導（腰骨ピン）
・持ち物の約束
・ノート指導
学習課題を赤、まとめを青

◆家庭学習の充実

・「自分ごと」としての家庭学習
なぜ家庭学習をするのか考える。
与えられた「宿題」から自分で
考える「学習」へ。

・学年や発達段階に応じた学習内容
低学年　→基礎基本を固める。
中～高学年→自分で考えて自分に
合った学習方法で取
り組む。

・「学ぶ楽しさ」を味わうことのでき
る家庭学習（「けテぶれ学習法」）

◆中学校教員による交流授業

・原野谷中英語科教員との T.T 授業
（６年生　毎週木曜日）
新掛川スタンダードの活用
デジタル教材の活用した原田小
との連携

目指す姿

進んで学びに向かう子
じっくり学ぶ子
みんなで対話しながら学ぶ子

掛川市立原田小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○キャッチワードを意識して反応を返すことで、友達の意見につなげて発表する意識が生まれた。
（※キャッチワード…「だったら…」「ってことは…」「例えば…」「でも…」「もし…」など、友達の発言の後に出て来る自然な反応）
○ペアや班など、様々な形態で対話の機会を意図的に仕組んだことで、問題解決に向けた個々の発言力がついてきた。
○iPad の活用方法を研修してきたことで、教師の活用スキルが上がり、児童も iPad を使って思いを伝えようとする姿が多く見られた。
△低学年では、自分の考えをまとめる力をもっとつけたい。高学年では、自分の考えや思いは伝えられるが、そこから思考を広げていく力がまだ弱い。
△子ども同士で話し合い、考えを深めていける学び合う力をもっとつけたい。

研修テーマ

自分の考えをもち、学び合うことができる授業づくり
～ICT の効果的な活用を通して～

研修の取組

１単元構想の工夫（単元構想や課題は適切だったか）　**創律力**

児童の「知りたい！」「やってみたい！」を引き出す単元構想の工夫をしたり、教科や特別支援教育の視点に応じた単元構想の工夫をしたりしていく。カリキュラムマネジメントをする。児童の思考の流れに合わせた課題設定を行い、その単元のゴールの姿を見通し、つけたい力を確実につけていく。

２ICT の活用方法と活用場面の工夫
（ICT の活用方法と活用場面は効果的だったか）

掛川市から児童に１人１台配付されたタブレット端末を効果的に活用していく。それ以外の ICT 機器も活用し、**思考力・関わり合う力を伸ばすために有効な ICT の活用方法を研修**していく。　**創像力**

３協働的な学びの充実
（協働的な学びを充実させるための手立ては有効だったか）

対話を深める手段としてキャッチワードを使っていくことを推奨する。**協働的な学び**の中で個の学びを深化させ、**他との関わりの中で自分を生かし、思考を広げたり話を深めたりする手立てを追究**していく。　**創合力**

特色ある学力向上への取組

基礎・基本の定着

・教師の授業力向上＝児童の学力向上ととらえ、研修を深める。
・少人数だからこそできる個別最適な学びの充実をし、子どもたち一人一人を大切にする。（一人一人が主役の授業）
・静岡県定着度調査、全国学力・学習状況調査の分析を行う。

「目指す授業像」の追究

・学級担任と児童が、目指す授業の姿を共有し、合い言葉となる「目指す授業像」を設定する。
・「目指す授業像」を定期的に振り返り、PDCA サイクルの中で目指す姿に向けて追究していく。
・「目指す授業像」実現に向けて自分事でとらえ、主体的に取り組むことができるようにする。

１人１台の iPad の活用

・対話と思考を深めるツールとしての Google workspace の活用を行う。
・iPad を活用した家庭学習を充実していく。
・校内研修で iPad 使い方研修を行い、まず教師が iPad の使用に慣れることができるようにする。
・各学年の授業を見合う週間を設け、活用の仕方を探る。

家庭学習の充実

・個の考えを家庭学習で創ってから授業に臨むなど、授業と直結した家庭学習を取り入れる。
・タイピング技術を向上するためのキーボー島や授業の復習をする e ライブラリなどで iPad を活用した家庭学習を行う。

リアル体験の意図的設定

・「原田が一番」の思いのもと、地域人材を積極的に活用する。
・地域を材とした「夢原里学習」（総合的な学習の時間）を行う。
・「本物」との出会いを大切にし、積極的に体験活動を行う。

原谷小・原野谷中との連携

・原野谷中学校の外国語専科の教員が６年生の外国語の授業を行う（週１時間）。
・学園内でのリモート交流を積極的に行う。
・清響祭での音楽交流を行う。（４・５年生）
・原谷小と自然教室（５年）を合同で行う。

目指す姿

学校教育目標

夢を抱き　りりしく歩む　原田っ子

掛川市立西郷小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇決まっていることや与えられたことに対しては、とても真面目に取り組むことができる。
◆自分で考え判断したり、向上心をもって取り組んだりすることが苦手な児童が多い。
◆自分の考えに自信がもてず、失敗を恐れるがあまり自分の思いや考えを発することに臆病になっている。

研修テーマ

共によりよく生きようとする子の育成
～子供たちが自ら学び続ける授業づくりを通して～

研修の取組

1　自分が担当する教科を窓口教科とする。
2　学びづくり部や情報推進部と連携して「対話」や「ＩＣＴ活用」を意識した授業づくりをしていく。　※かけがわ型スキル　④コミュニケーション力
3　研究内容（つなぐための手立て）
（1）ねらいの明確化（西郷型指導案）
- **単元において育成する資質・能力の三つの柱を明確にする。**
- **単元の評価規準を作成する。**
- **子供の姿を思い描いて、単元構想を作成する。**

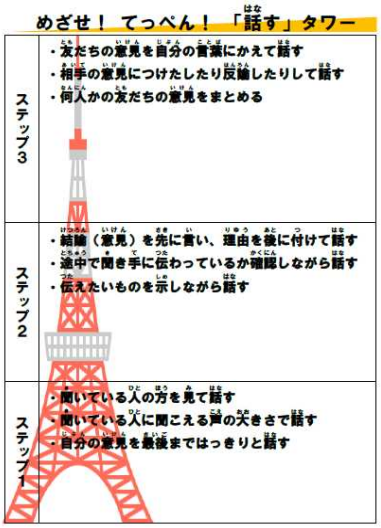
（2）考えを深めるための工夫　※かけがわ型スキル　①思考力　②問題解決力
- **考えたくなる発問をする。**
- **子どもに自分の考えをもたせる。（時間、場の確保）**
  →主体的な学び＝「創律力」の育成の場の一つに
- **対話の場の設定をする。（ペアやグループの構成・話し合いの視点）**
  →対話的な学び＝「創合力」の育成の場の一つに

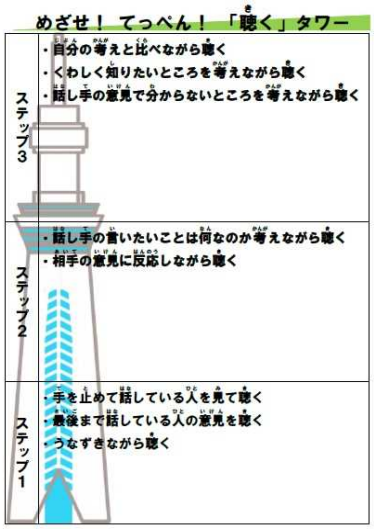
（3）振り返り
- **振り返りの時間を確保し、子供自身に何が身に付いたのかを明確にさせる。**
  →「創像力の」の育成の場の一つに

（4）つながる姿の見取り
- **ICT の活用**
- **評価**

特色ある学力向上への取組

【対話を意識した授業づくり】
- 話す力・聴く力を高める。
  （話す聴くタワーの活用）
- 「対話タイム」毎週火曜日朝活動で実施する。
- 語彙を増やすために、読書や辞書を引く習慣を身に付ける。





【基礎基本の定着】
- 授業の中で反復練習を位置付ける。
- 学習の振り返りを重視する。
- 「チャレンジテスト」を実施する。
- 「学びの６か条」の定着を図る。（筆箱の中身、忘れ物無し、授業準備等）

【一人一台 iPad の活用】
- iPad を身近な場所に常におき、いつでも使えるようにしておく。
- Google Workspace を活用し、質問したり、ワークシートや資料などの配付物を配ったりする。
- 情報推進部をつくり、業務改善チームと授業改善チームに分け、ICT を活用し、業務や授業の改善を目指す。

【家庭学習の充実】
- 授業の内容と結び付けた家庭学習を出し、予習、復習をする学習習慣を身に付ける。
- 「家庭学習の約束」を配布し、家庭への協力を呼びかける。
- 「いえ読」を呼び掛け、家庭読書の定着を図り、読書好きな子を増やす。

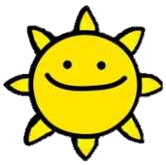
【小中の連携】
- 冀北学園で「冀北の教え５か条」を決め、統一した指導を図る。（あいさつ、思いやり、ルールを守るなど）
- 学園内で年１回の授業公開と、情報交換を行う。

目指す姿

ふるさとを愛し　未来にはばたく子

掛川市立倉真小学校
令和４年度　我が校のものがたり

子どもの実態



〇与えられた課題に対して一生懸命に取り組むことができる。
〇基礎・基本の力が向上してきている。
〇人間関係が良好で、協力して学ぶことができる。
〇意欲的に発表できる子が多い。
●受け身の姿勢になりがちで、自分の力を伸ばす力が弱い。
●多様な考えが生まれにくく、学びが深まりにくい。
●家庭学習が自己の課題に応じた取組になっていない。

研修テーマ

「～たい」でいっぱいの授業
～考えたくなる学習問題の設定を通して～

研修の取組

【研修内容】
　自ら求めて「考えたい。」を引き出す学習問題を設定することで、自分で考える楽しさや自分の考えをもつよさを実感させ、学びに対して主体的に取り組めるようにする。（創律力）

【共通実践】
・学習課題→学習問題→まとめを柱とした授業をする。
・「学習課題･･･白枠。学習問題･･･赤枠。まとめ･･･青枠。」を統一する。
・「～たい」を引き出す仕掛けを積極的に入れる。
・基礎・基本の力を付けることで、全員が授業に参加できるようにする。
・規律はあるが、リラックスできる学級作りを土台とする。

【研修体制】
・全担任による研究授業を実施し、事後研修で成果と課題について話し合う。
・公開授業後、授業者が成果や課題、今後に生かしたいことをまとめたものを全職員に配付する。
・iPad の効果的な活用についての研修を実施する。
・個人研修を設定し、教材研究の時間を確保する。

学力向上への取組

基礎・基本の力

・朝学習による基礎学力の積み上げを図る。
　→個の実態に応じて必要な学習を行い、「伸びた。」「できるようになった。」という達成感が実感できるようにする。
・冀北テスト（年４回）を実施し、国語と算数の定着を図る。
　→テスト範囲や内容を伝え、計画的に学習を進められるようにする。
・テーマ作文と日記を定期的に実施し、自分の思いを言葉にできるようにする。
　→文を書く楽しさを大切にした取組にする。

自ら学ぶ力と家庭学習

・家庭学習の最終的なねらいを「自分の学力を伸ばす力を付ける。」ことと設定し、低学年・中学年・高学年の発達段階に沿った家庭学習にする。
・家庭学習のねらいを保護者とも共有し、協力を得る。

冀北学習

・倉真地区のよさを再発見するようなテーマを設定する。
・地域の方や自然を生かし、体験を伴った探究活動を実施する。
・「冀北発表会」で学習の成果を地域や保護者に発信する。

読書活動

・朝読書（週４回１５分間）を実施する。
・読んだ本を読書ファイルや読書しおりを使って記録する。
・ノーメディアカードを活用し、家庭での協力を得る。

目指す姿

主体的に学ぶ姿　→　「～たい」でいっぱいの姿

掛川市立土方小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○取り組むべき事には、一生懸命取り組む。また、粘り強く取り組むことができる。
○自分の考えをもつことができる。
○自分の言葉で書く学びの振り返りが定着してきた。
▲「自分から進んで」という意識が弱い。
▲対話の中で考えが深まっていないときがある。

研修テーマ

対話を通して考えを深める授業
～自分から考えたくなる、伝えたくなる単元構想の工夫～

研修の取組

未来を切り拓く３つの創る力

「創像力」考えが深まる「問い」や「場面」を設定した単元構想の工夫。
手立て①：学びを深める焦点化された、単元を貫く“学習課題”を設定する。
手立て②：単元のゴールや流れを児童と共有する。

「創合力」対話を通して、考えを深める。
手立て①：まなボード（Jamboard）やＴ字隊形を活用する。
手立て②：考えを深める“つなぐ言葉”の充実を図る。

「創律力」振り返りをすることで、自分自身の力を知り、調整し、新たな課題を見つける。
手立て：振り返りの視点を与えるための３つのカエルを活用する。

特色ある学力向上への取組

① 一人一台のｉＰａｄの活用について

・児童が「主体的」、「対話的」に授業に取り組めるように活用していく。
・研修や打ち合わせ時に、情報主任から活用方法についての提案を行う。
・校内研修の公開授業では、iPad を活用した授業を行うことで、効果的な活用方法を蓄積していく。挑戦する姿勢を大切にする。

②目指す授業の姿と家庭教育のつながりについて

目指す授業の姿：人・もの・ことにかかわり、学びをつくり出す子

・家庭学習では基礎基本の力をつけるため復習的な学習に取り組む。例：音読、漢字、計算
・家庭でも主体的に取り組み、授業で協働し活用表現するための準備学習（予習・反転学習）
⇒単元を見通して、使い分けていく。
・自主学習に取り組む中で、自分に必要な学習を選択できるようにしていく。

③かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用について

城東学園一貫教育カリキュラムの内容を精選し、実践を続ける。

外国語活動　新かけがわスタンダードに基づき、小学校外国語活動と外国語科における一貫教育カリキュラムの実践をする。

道　徳　地域素材（偉人）を題材にしたかけがわ道徳を計画的に行う。本音で語り合い、自己の生き方についての考えや自覚を深めるようにする。

総合学習　身近な地域を題材にすることで城東地区をより深く知り、城東を愛する心を育てる。

目指す姿

学校教育目標　城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標　アクティブ　ポジティブ　クリエイティブ

掛川市立佐束小学校

令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

令和３年度は、「算数科」を窓口とし、研修テーマ「対話を通して考えを深める授業」を実現するために、「考えを深めるための単元デザイン」「学習問題につながる問い返し」の２つの視点で研修を行った。

その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

〇授業の中で意図的な対話を取り入れたことで、児童が対話することに慣れた。
〇問い返しにより、式に注目したり、既習事項を活用したりする姿が見られた。
▲自分の意見を友達に伝えることで終わってしまい、深めるところまでいかなかった。
▲自分の考えを表現できずに授業が終わってしまう児童もいた。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

【研究仮説】

考えを深めるための単元デザインを工夫し、「　　（各教員で設定）　　すれば」児童が主体的に対話をし、考えを深めていけるようになるだろう。（創合力の育成）

【研究の手立て】

(1)　考えを深めるための単元デザイン

①　何が使え、何を教え、何を考えさえるか学習指導要領を活用し、明確にする。

②　対話を通して深める場面を検討する。

(2)

①

②

教員それぞれが決める。

例・子どもが解決したいと思う学習問題の設定
・対話の場ややり方の工夫

本年度は、教員自身が主体的に学び、研修を深めていくために、教員それぞれが研修する教科や手立てを考え、ＰＤＣＡを繰り返し、自己の研修を積み上げていく形をとっていく。全体研修の場では、それぞれの実践を共有し合うことを通して、それぞれが打った手立てのよさや、改善点などを話し合い、教員全員で「対話を通して考えを深める授業」を行っていくために大切にしていくべきことや様々な手立てなどを学び合い、深めていく研修としたい。

特色ある学力向上への取組

落ち着きのある教室環境づくり ＵＤたい夢

・教室内の掲示コーナーや教室備品置き場を統一
・学び合いコーナーを設置
・すっきりした前面掲示

城東学園での小中一貫教育の推進

・研修テーマの統一
・小中での計画的なソーシャルスキルトレーニングの取組

学んでいく姿勢を支える取り組み

・学びじまん月間（４月）で学習ルールを守る意識作り
・「Ｃ（コミュニケーション）たい夢」
授業の中で自分の意見を話したり、話し合ったりするスキルを学ぶ時間。
年間５時間。

一人一台 iPad の活用

・授業での積極的な活用
・ドリルや学習アプリによる自主学習
・家庭で調べてきたことや考えてきたことを授業で共有
・オンライン授業の実施

自分からまなんでいく場

・「まなびたい夢」
自分の夢に向かって、自分で取り組むことを決めて、学ぶ時間。年間７時間。

成長を認め合う場

・「宝たい夢」
互いのよさや、がんばりを宝カードに書き、仲間と渡し合う時間。
年間５時間。
・「家族ふれあい宝たい夢」
家族から宝カードをもらい、成長を実感する時間。年間４回。

目指す姿

・学習問題を解決しようと、自分から話しかけたり、話し合いに参加したりする子。
・友達の考えと自分の考えを比較しながら聞き、もう一度考え直したり、自分の考えを確かなものにしたりする子。

掛川市立中小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

○自分の考えを伝えたり聴いたりして、互いの考えを分かろうとすることができるようになってきた。
○課題解決に向け、対話やコミュニケーションをとろうとすることができるようになってきた。
▲自分の考えを伝えたり、他の人の考えを比べたりすることに自信がもてず、受け身になる子がいる。
▲自分の考えをわかりやすく伝えるためのスキルが育っていない。

研修テーマ

城東学園小中一貫教育共通テーマ
「対話を通して考えを深める授業」

研修の取組

（１）「対話を通して考えを深める」ための手立て
①子どもが主体的に考え、解決したくなる「問い」の設定
「考えたい」という気持ちを生み出す工夫⇒魅力ある単元構想や導入。
②考えを深めるための対話
対話の場面の設定⇒授業者が意図をもって場面を設定する。
（２）考えが深まっている姿の追究
城東学園教科領域部会で、「対話を通して考えを深めた授業」の実践を持ち寄り、話し合う。iPad を活用した授業についても話し合う。
（３）学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～
①３～４人を基本したグループ、互いの顔を見られる隊形（Ｔ字型）。
②対話時に「まなボード」や iPad の機能を活用する。
（４）授業のユニバーサルデザイン
①板書方法を統一する。（学習課題：白枠、学習問題：青枠、まとめ：赤枠）
②指導案の形式を統一する。（９年間の学びの系統性を入れる。城東学園で統一。）

特色ある学力向上への取組

iPad の活用

校内研修の公開授業において、iPad を活用した学習を行い、効果的な活用方法について探る。

日々の授業の中で iPad を使った活動に取り組み、使い方に慣れる。

中小日記･･･「書くこと」の指導

【ねらい】

①６年間継続して書くことで、基礎学力のもとになる「書く力」を身に付けさせる。

②書いたものを紹介し合うことで、自分や友達のよさやがんばりを感じさせる。

【方法】

・金曜日の朝活動の時間に行う。

・学年ごと、全員に身に付けさせる指導事項を設ける。

家庭学習の充実

【ねらい】

自ら学ぼうとする習慣づけを図る。

【方法】

・「学年目標（１０分×学年＋１０分）の学習」を目指す。

・学校での学習内容を伝える「お茶の間学び発表会」を行う。

・iPad を持ち帰り、ｅライブラリの活用も含め、個に応じた学習に取り組ませる。

外国語教育の推進

新かけがわスタンダード Can－Do リストを活用する。

ALT との打ち合わせを確実に行い、外国語科・外国語活動に取り組む。

読書の充実

【ねらい】

読書活動を通して、言語能力を高め、論理的な思考力、コミュニケーション能力等を高める。

【方法】

・朝活動の時間に読書を行う。ボランティアによる読み聞かせも行う。

・職員による読み聞かせや、図書委員によるおすすめ本の紹介を行う。

目指す姿

学校教育目標　城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども

重点目標　　自分から　自分たちで

掛川市立大坂小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態（研修の成果と課題）

〇与えられたこと、決められたことに責任をもって取り組む真面目さがある。
▲自分事として捉えて、考えて行動しようとする意識が少ない。
〇学習問題に至るまでの導入で、子どもたちの思いが学級全体で共有されていると、必然性のある学習問題になると分かった。
▲自分の意見を伝えるだけで、交流する中で考えを広げたり深めたりするに至らなかった。

研修テーマ

「主体的に関わり合って　学びを深めていく子」の育成

研修の取組

主体的に関わり合う姿とは・・・
〇学習の内容や活動を自分ごととして捉え、人生や社会、生活等と関連付けたり他者と関わったりする姿。**【創律力】**

学びを深めていく姿とは・・・
・他者との協働や対話を繰り返しながら様々な考えに触れ**【創合力】**、自らの問いや考えを変化させていく姿。**【創像力】**

＜研究仮説＞　**学習問題の工夫や話合いの場の工夫をすることで、主体的に関わり合って学びを深めていくことができる。**

【視点と手立て】

視点①　学習問題の工夫
・必然性のある学習問題
・既習事項とのズレのある学習問題
・意見の違いから生まれる学習問題

視点②　話合いの場の工夫
・話合いの視点を明確化する
・形態の工夫（ペア・トリオ・グループなど）
・思考ツールの活用

特色ある学力向上への取組

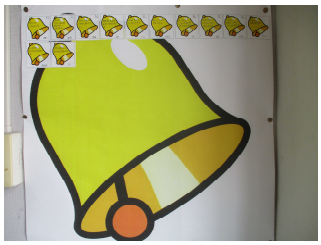
【小中一貫カリキュラム・話す聴く山ステップ】

大浜学園共通で、「聴く」に重点をおいて取り組んでいます。学校共通の目標を設定しています。

【目指す授業像の設定】

各クラスで、目指す授業像・学級像を設定しています。各ステージの終わりには、振り返りを行います。

【心の鐘コーナーの設置】



授業面での良いあらわれを、子ども同士、そして教師からも「心の鐘」カードに書いて掲示しています。

【一人一台 iPad の文房具化】

机の横のバッグに iPad を入れています。授業の中で、必要に応じて活用しています。家庭にも持ち帰り、活用を進めます。

【家庭学習の見届け】

学校の約束として家庭学習の見届けを行っています。見届けたサインをもらい、発達段階に応じて丸つけや声かけをお願いしています。令和 4 年度は、高学年において反転学習を進めていく予定です。

目指す姿

他者との対話や協働を繰り返しながら様々な考えに触れ、
自らの問いや考えを変化させていく姿。

・「ここに書いてあることからこんなことがわかるよ。」（わかったことを整理）
・「共通して言えることは…」（気付きや発見）
・「違う考えもおもしろいな。」（広げる、比較する）
・「最初はこう思っていたけど…」（考えの変化）
・「違う問題でもこのやり方で解けるかな。」（新たな問いや考え）
・「A と B を合わせて C の考えもできるかも。」（精査や考えの形成）など

掛川市立千浜小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

昨年度は研修主題を「主体的に学び合う子～ICT の効果的活用を通して～」とし、研修を進めてきた。本校の児童は、与えられたことに対しては真面目に取り組むことができる。その反面、課題を自分事として捉え、思考・判断・表現していくことが苦手な傾向にある。そこで、昨年度はこの研修主題のもと、「伝え合う活動を通して学びを深める」ための手立てとして、①付けたい力を明確にし、ICT を効果的に活用する②単元構想や授業構想の中で、中心発問や補助発問を工夫するの２点を研修の柱とし、授業改善に取り組んだ。その結果、以下のような成果と課題が見えてきた。

〇本時で付けたい力を明確にし、ICT を効果的に活用することで、意欲を高めながら学ぶことができた。

〇ICT の活用に慣れ、自分の考えを書き込んだり、説明したりするための道具として効果的に活用できた。

〇中心発問を子どもたちの言葉から作っていくことで、まとめへとつなげることができた。

▲ICT を個人での活動では効果的に活用できたが、全体の共有の場での活用が難しい。

▲自分事として課題を捉えるためには、中心発問や補助発問のさらなる工夫が必要である。

▲自分の考えを伝えることはできているが、考えを深めるところまでできていない。

▲ICT を活用したときの評価の仕方について考えていく必要がある。

研修テーマ

主体的に学び合う子を育成するための
教科指導の在り方

研修の取組

1．子どもにとって自分事として捉えることができる学習問題・課題

・比べようとする必然性がある。
・自分が考えたこと、やってみたことを伝えたくなる。
・いろいろな解決方法が考えられる。
・今までに学んだ内容を想起、活用できる。
・ずれや意外な結果が得られる。

2．話したくなる・協働したくなる対話の場の設定

・どの場面でどのような対話の場を設定するのか。（全体、班、ペア、意図的なグループ）
・対話の視点を明確にする。

3．文房具としての ICT 機器の活用

・一斉指導、グループ活動、個人作業など様々な場面で、どのような活用方法があるかを考える。

特色ある学力向上への取組

【学びの土台づくり】
・話す山、聞く山の定着

・朝の会でスピーチ
・朝のドリルタイム（毎週金曜日）
iPad の活用（e ライブラリ等）

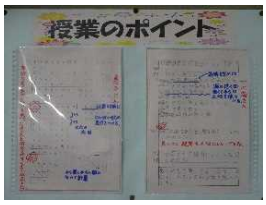
【ユニバーサルデザインを意識した授業】
・１時間の授業の流れが見通せるミニホワイトボードの活用
・中学校区で統一した板書
（学習問題は赤枠、まとめは青枠）

【家庭との連携】
・家庭学習の手引きの配布
・週末読書、親子読書の推進
・家庭学習時間の意識化
・iPad の活用（e ライブラリ等）

【外国語教育】
・新かけがわスタンダードの活用
・ＡＬＴとの連携

【読書指導の充実】
・朝読書（週３日）
・読み聞かせボランティアや教師による読み聞かせ（毎週水曜日）
・学年に応じた必読書の設定
・毎日の家庭での読書の推進
・学校図書館を活用した授業の推進
・図書便りの発行

【教室環境の整備】
・学習コーナー、道徳コーナーの設置
・すっきりした前面掲示



目指す姿

自分事として課題を捉え関わりながら、
自分の考えを広げ深めることができる子

掛川市立横須賀小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

・ペアやグループ活動において友達と関わり合おうとすることができるようになってきた。
・授業の全体の場などで自分の考えに自信をもったり、考えをもったりして発表をすることができるようになりたい。

研修テーマ

子供が自分の考えに自信を持って語れる授業

～　学習問題の工夫　～

研修の取組

・子供達が個で考えたくなるような学習問題とは？

・友達と力を合わせ、物事を様々な視点から見つめ、試行錯誤しながら自分の考えに自信や根拠をもたせる手立てとは？

・どのような教材を用意し、解決させていくか？

特色ある学力向上への取組

◇職員・子供の統一事項◇

☆横須賀小学校の聴く話す
☆教師の心構え
☆板書例

◇ICT 機器の活用◇

☆ICT を効果的に活用した授業
☆調べる、まとめる、伝えることでの活用
☆プログラミング教材の積極的な活用

◇「人のことを大切にして聴く・自分に対する信頼を高める」ための取組◇

☆毎週水曜日の朝活動に聴くスキルトレーニング
☆毎週金曜日の朝活動にキラリ（自分や友達への価値付け）を書く

◇読書指導◇

☆朝活動での開き読み、読書
・図書ボランティアによる開き読み
・読書カードの活用
☆学校司書の活用
・読書の時間や授業での本等の紹介

目指す姿

・友達の考えや思いを理解しながら聴く子

・自分の考えに自信・根拠をもち、積極的に友達へ伝える子

・友だちが「伝えたい！」と思えるような自然で温かい反応をする子

掛川市立大渕小学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

令和３年度研修テーマ

「根拠・理由を明確にして　進んで自分の言葉で伝え合う子」を育てる授業

〇付けたい力を明確にし、導入を工夫することで、単元でのゴールの姿や活動がはっきりとし、子どもたちの意欲が持続したこと。

〇キーワードを丸で囲んだり、色分けして線を引いたり、文を比較したりする手立てを教師が打つことで、本文を根拠にした読みができるようになってきたこと。

〇「根拠」「理由」を明確にすることが、教師も子どもも意識できるようになってきたこと。

▲考えが書けても、自分の考えに自信がない。（納得解になっていない）

▲自分事として聴けていないため、反応ができない。（主体的な聴き手になっていない）

研修テーマ

「根拠・理由を明確にして　自分の考えをもてる子」
を育てる授業

研修の取組

（１）　本時の目標達成にせまる「追求を促す発問」を仕掛ける

ア　ゆさぶる発問（深化）

イ　焦点化する発問（統合）

ウ　発展させる発問（発展）

↑発問や活動を通して創像力と創合力の育成を図る

【窓口教科】
国語科（物語文）
【中心授業研】低・高
常葉大学　中村教授
六郷小学校　竹下教頭
を講師として招聘
【特別支援学級授業研】

（２）　本時や単元で「何が分かったのかまとめる振り返り」を設定する

ア　学習問題（問も）とまとめ（ま）を連動させる。

↑創律力

イ　教師がまとめに書かせる内容をはっきりとさせる。（まとめと振り返りの使い分け）

ウ　年度初めに抽出児を決め、まとめを通して個の変容を追う。

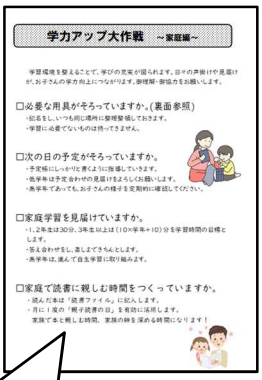
エ　単元終わりに共通したワークシートを活用して振り返り（メタ認知）をする。

特色ある学力向上への取組

目指す授業像の共有

自分を知り、学級を知り、学級で学び合う姿を話し合い、学級の目標と自分の目標を立てる。掲示して定期的に振り返ることで成長を確かめていく。（メタ認知＝創律力を大切にする）

また、実態に合わせて段階を追いながら分かりやすい伝え方や心で聴くことを指導していく。



研修構想図をすっきりとさせ、職員で目指す姿の共通理解を図る。

「学力アップ大作戦」という保護者向けのお便りを配付し、家庭学習の見届けをお願いする。

学びの土台

小中一貫カリキュラム

・学園の共通実践項目の実施

・教科担当を中心に、かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用を促す。

学校と家庭をつなげる家庭学習

①音読、漢字、計算、読書を基本として取り組み、本読みカードを活用しながら、家庭と連携して指導していく。

②高学年は、自主学習に計画的に取り組み、自分から学ぶ姿勢を育てる。

③全児童に、e ライブラリの活用法を知らせ、自主的な取り組みを奨励していく。

一人一台 iPad の活用

・定期的なオンライン授業の実施

・アナログとデジタルを使い分ける

・読書ファイルのデジタル化

語彙を豊かにする朝活動

①読書・読み聞かせ（月・火・木）

・自分の目標を立てて読書をする。

・図書館デー、大渕小の 30 冊の活用。

・親子読書の日の設定

②ドリル学習日の設定（金曜日）

職員の研修の場の確保

・年間 15 回のミニ研修の計画、実施（金曜日）

・GIGA の時間、UD の時間を設定し、担当者が簡単なスキルやポイントを伝え、ICT の活用や UD の視点に立った授業や環境整備を行えるようにする。

目指す姿

☆根拠・理由を明確にして　自分の考えをもてる子

・本文を根拠にしながら自分の考えをもつことができる姿

・友達の発言を聴いたり友達と交流したりして自分の考えを深める姿

・最終的な自分の考えを書いたり内容の理解度や活動の進捗度合いなどを自分自身で把握したりするための振り返りをする姿

・友達の考えを主体的に聴く姿

中学校

掛川市立栄川中学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇授業や日々の生活において、様々な活動に真面目に取り組む。
〇与えられた課題に対して、積極的に取り組む。
〇「学び合い」を意識した授業を各教科で意図的に取り入れ、進んで関わり合える。
▲難しい課題に対して、諦めが早い。
▲話合い活動が、自分の意見を伝えるだけになりがちである。
▲基礎・基本の力の定着が弱い。

研修テーマ

進んでかかわり「学び合う」生徒の育成
～生徒が学び合いたくなる問いの設定～

研修の取組

栄川中学校区一貫研の研修テーマ「進んでかかわり学び合う子の育成」を受けて、本年度の研修テーマを「進んでかかわり「学び合う」生徒の育成　～生徒が学び合いたくなる問いの設定～」と設定した。

サブテーマとして、「生徒が学び合いたくなる問いの設定」に焦点をあて、生徒が「知りたい！」「解決したい！」と思える課題（学習問題）の設定に重点をおいた研修を推進する。教師から与えられた課題から、「生徒が学び合いたくなる問い」を生み出していく。その問いがあってこそ、「学び合い」が成立し、「学び合い」の質も高まっていく。この「生徒が学び合いたくなる問い」をもたせるには、教師のどのような手立て（仕掛け）が必要か、日々の授業実践、教材研究や研修を通して、授業改善を進めていく。

また、授業改善だけでなく、同時に生徒理解を推進する。小学校から中学校へのなめらかな接続、つまり、「具体から抽象」「答えのない問い」へと学びを深化させていくことも求められている。本年度の研修では、「生徒が学び合いたくなる問い」を各教科ごとに設定していくと同時に、教師の言葉（話し方、指示、発問→わかりやすく明確に）や板書（視覚化）にも意識を向けて取り組んでいく。

特色ある学力向上への取組

＜学び方を知り、実践する＞

生徒が自身の課題を把握し、自分で家庭学習ができるようになる姿を目指す。

＜ＧＳＫ（学習相談会）＞

家庭学習の方法・内容を見直したり、教科の学習の困り感を洗い出したりする機会を通して、学び方を学び、学びを深めることを目的とする。方法としては、今までの学習の取組や学習において困っていることなどの事前アンケートをとり、アンケートをもとに教師が生徒一人一人にアドバイスをしていく。

＜生活プログラムの実践＞

毎日記入する予定帳の生活プログラムの欄に、帰りの会の時間を使って、家に帰ってからの予定を記入し、できたら○、変更したらその内容を記入して翌日提出する。家庭での時間の使い方を考え、どの時間が学習に適しているかなど各自で判断する。

＜読解力向上学習＞

毎週金曜日８：00～８：10 の 10 分間で新聞記事を読み、内容理解を深める問いを数問解く。その後、理解した内容について班員とﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝする。文章読解力を高める活動であり、読み取る力、まとめる力、伝える力が育つ。

目指す姿

学校教育目標　　学び合い　やり抜く　栄中生

学習･･･学び合い、粘り強く課題に取り組む生徒
生活･･･仲間を思いやりながら、自己判断して行動する生徒
特活･･･本物の「自主性」と「自立的な力」のある生徒
研修･･･学び合いを通じて、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深める

掛川市立東中学校
令和4年度　我が校のものがたり

研修の成果・課題

○多くの教職員が一人一台端末を用いた授業実践を多く行い、生徒がiPadを用いて授業・生徒会活動・学級活動などに主体的に取り組むことができた。
▲研究テーマが抽象的なものになってしまい、具体的にどのような授業をつくるか曖昧になってしまった。

研究テーマ

東中型GIGAスクールの実現
～協働的な学びや個別最適な学びの実践を通して～

研修の取組

掛川東中で育成する資質・能力

自主＝創律力
他に頼らず、自分で考え、主体的に行動する

創造＝創像力
自分なりの方法で新たな価値をつくり出す

敬愛＝創合力
感謝の気持ちをもち、自他を大切にし、共に向上しようとする

特色ある学力向上への取組

協働的な学びと個別最適な学びの往還

協働的な学び

東中が研修で磨いてきた「学び合い」のさらなる進化

①疑問や意見が双方向に行き交う
②教科における「見方・考え方」が働く

ICT

個別最適な学び

生徒の「自己調整学習」を支援する

①学習の個性化として、生徒が興味・関心・キャリア形成の違いを表現できる学習活動や課題を設定し、取り組む機会を提供する
②指導の個別化として、生徒一人一人の特性・学習進度・学習到達度に応じ、必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材の工夫を行う

協働的な学びを深化させる 一人一台の iPad 活用「グラグラの種」

授業開始時に思考が深まっていない生徒 → 「発展的」「総合的」に思考を深める生徒

グラグラの種･･･「比較」「分析」「統合」などを促し、生徒の学びを深める ICT 活用

かけがわ型小中一貫カリキュラムを意識した掛東学園の連携

保幼小との連携

○定期的な一貫研の開催を通した授業参観

○Teams を用いた教育課程や研修の情報交換

個別最適な学びによる授業と家庭学習の連動

自己調整学習ができていない生徒 → 自己調整学習に意欲的に取り組む生徒

○スプレッドシートを用いた毎時の授業の振り返り・評価
○授業の板書をもとに学びを再構築する「レビューノート」

授業における魅力的な課題（問い）の設定

①生徒が夢中になる
②適切な難易度
③生徒目線の課題

問いは必ず板書し、赤枠で囲む

目指す姿

自主（創律力）・創造（創像力）・敬愛（創合力）を磨く

うつくしい　りりしい東中生

掛川市立西中学校

令和4年度　我が校のものがたり

生徒の実態

○明るく素直でまじめに取り組める生徒が多く、挨拶・創自（清掃）の態度は模範
○上級生が手本を示し、下級生が見習う文化
○小集団活動などをはじめ、授業に対して積極的に取り組める生徒が多い
○１人１台端末を巧みに使用することができる

▲全体の前で自分の考えを発表したり、自ら進んで行動したりすることが不得手
▲新しい人間関係づくり・対人コミュニケーション力に欠ける生徒が見られる
▲時折、苦しいことや厳しい状況に立ち向かう、たくましさに欠けるところがある

〈研修テーマ〉自ら課題を解決する力の育成

個に応じたきめ細やかな指導

学びを実感する体験的な活動

子どもが主役

1人1台端末の活用

小集団での対話活動

創像力

学習テーマの工夫

ICT機器の活用

創合力　**創律力**

研修テーマに迫る日々の取組

① 学習テーマの明確化→赤囲み

"自分ごと"として学ぶ 学習テーマ の設定
⇒本時の学習テーマを赤枠で囲んで見える化

② 課題解決のためのひと工夫

【個別最適な学び】
・個に応じた細やかな指導
（例）机間指導等による個に応じた働きかけ
・1人1台端末の活用
（例）スタディ・ログを学びのポートフォリオとして電子化、蓄積

【協働的な学び】
・学びを実感する体験的な活動
（例）身近な事象、具体物の用意（実験・実習）
・小集団（ペアや学習班）での対話活動
（例）対話活動における生徒のつぶやきを繋ぐ
・ICT機器等を活用して意見を交流する機会
（例）アプリを使って意見交流の場面を設定

特色ある学力向上への取組

子どもが主役の授業

研修テーマ：自ら課題を解決する力の育成

【日々の取組】

① 自分事として学びたくなる学習テーマ

② 課題解決のための“ひと工夫”
『個別最適な学び』『協働的な学び』

③ 新たな学びのスタンダード
『つかむ→追究する→振り返る』

１人１台タブレットの活用

① Google Classroom を活用した授業展開

② １人１台端末を使用した調べ学習

③ ドキュメントを使用したレポート作成

④ Google フォームによるアンケート集計

家庭学習の充実

① 『花崎ノート(自学ノート)』の有効活用

② e ライブラリを利用した家庭学習

③ １人１台端末の活用

掛西学園の連携

掛西学園が目指す子ども像『自分で考え判断する思いやりの心をもった掛西学園の子』

＜重点＞

・自分で考え、選択し、決定する場

・園小中 15 年間の『縦の繋がり』や、各園校・家庭・地域の『横の繋がり』を意識したカリキュラム

＜具体的取組＞

① １人１台端末の活用推進

② 学びを支える『聞く・話す』の徹底

③ 乗り入れ授業（中１ギャップ）

④ 『だいじ』あいさつやふれあいデー、繋がる宣言の実施

地域に根ざした学校として

① 地域の人材を生かし、学校へ取り込んだ活動（読み聞かせ、地元芸術家鑑賞会）

② 近隣高校・小学校・幼保園との公開授業（主活動）による指導方法向上の連携

読書環境の充実

① 朝読書の実施

② ボランティアによる読み聞かせ

③ 図書館での朝読書

④ 図書委員会企画の読書啓発活動

目指す姿

子どもが主役として輝く学校

・仲間とともに、主体的に学び合う生徒 〈学習・研修〉

・仲間と共に、生徒会活動・学級活動にチャレンジする生徒 〈特別活動〉

・知性・品性を感じる生徒を目指して、自ら判断して、行動・発信できる生徒 〈生活〉

掛川市立桜が丘中学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

〇真面目な生徒が多く、授業態度は良好である。
〇指示されたことに対して素直に取り組む。
〇仲間と一緒に話し合ったり、協力したりする活動に意欲的に取り組む。
▲やや粘り強さに欠け、難しい問題や困難な課題に対して諦めてしまうことがある。
▲生み出された次の課題や、上位の目標を目指して、自ら進んで学習に取り組もうとする自主性にやや課題がある。

研修テーマ

未来へ一歩踏み出すために、主体的に探究し続ける姿を目指して
～ＰＢＬ・探究的研修を用いた授業改善～

研修の取組

本校では、生徒・教師がそれぞれ未来へ一歩踏み出すために、主体的に探究し続ける姿を目指して、「探究」「ＰＢＬ」「情報」の３つに重点をおいて取り組む。

探究　教師版ライズスパイラル学習　学校教育目標「大志・共生・挑戦」

- 授業、国・県・市・学校等の方針に関する自らの興味を具体化し、個人主導で探究的に研修を進める。
- 横と縦の繋がり（教科部・学年部・他教科・カリキュラムマネジメント）を強化する。
- 研修推進委員がメンターとして日常的にサポートする。

ＰＢＬ　ライズスパイラル学習　未来を切り拓く３つの創る力　学校教育目標

- ＰＢＬ（Project Based Learning）を、教科の授業や総合的な学習の時間に取り入れることで、生徒主体の探究的な学習の中で、課題の立て方、問題解決に関する思考力や協働学習等の能力や態度、新たな問いを立て学び続ける力を身に付ける。

情報　教師版ライズスパイラル学習　学校教育目標「大志・共生・挑戦」

- 学校や家庭の取組をそれぞれアップデートし、教育活動を積極的にＤＸ化する。

→ 職員へのＤＸ情報提供。家庭へのデジタル講習会。生徒が授業や学校生活への中で、効果的に機器やシステムを利用し、新たな知恵・活用方法を創造できる環境づくり。

特色ある学力向上への取組

《 魅力ある授業づくり「創像力・創合力・創律力の育成を目指して」 》

☆ 主体的・対話的で深い学び
- 生徒にとって仲間や資料との対話等を通して、自己の考えを広げたり、深めたりすることで解決につながる適切な難易度の課題を設定し、協働的な学びが活性化されるようにする（教師が教えるから、生徒が学ぶ授業へ）
- 個別最適な学びができるよう、自己の学びを調整できるための手法を身につけさせ、振り返りを確実に行うことで、自分の次の学びが明確になり、意欲をもって取り組めるようにする
- 自分の考えをもち、表現する手段・手法を学び、相手の考えを受け入れる聴く姿勢を大切にすることで、学び合いができる集団づくりを推進する
- 一人一台の iPad の有効活用の研究と実践を進める　→　積極的に授業や家庭学習で活用
- 読解力の向上を図る（NIE で得られた良さを生かす）

☆ 学習支援を必要とする生徒への配慮
- 所属感のある、全員が参加できる授業を目指す
- 構造的な板書や授業の流れのパターン化などを心がけ、ＵＤ化する
- 生徒の困り感を予測して教材教具を準備し、寄り添う指導をする

☆ 指導と評価の一体化
- 新学習指導要領に適合した授業の在り方や評価方法を研究する
- 評価を振り返ることで課題を見つけ、授業改善を図る

☆ 道徳教育の充実
- 周りの人や社会と関わりながら、より良く生きるための道徳性を育む
- 「Ａ項目の自主自律」と「人権に関わるＢ項目」を重点内容とする
- 考え議論する道徳の研究を推進する　・評価方法の工夫を研究する
- カリキュラムマネジメントを生かした指導方法を推進する

《 桜が丘学園（中学校区学園化構想） 》
- 学校と家庭と地域とが思いをひとつにした地域の子育てをする
- 情報の発信、受信（ｅじゃん掛川、各種便り、HP、参観懇談会、学校関係者評価等）
- 学校運営協議会、中学校区子ども育成支援協議会、民政児童委員主任児童委員と語る会
- 部活動ボランティアの充実
  →生徒が地域で活躍する場、賞揚の場の設置を積極的に行う
- 志を育む教育の充実
  →総合的な学習の時間で３年間を見通した計画による、段階的なキャリア教育の充実を図る
  →外部機関、地域人材と連携した教育

《 教科指導 》

基礎基本の定着と学ぶ意欲と追究する力の育成

(1) 授業五原則の徹底
① 開始時刻を守ろう　② きちんとあいさつしよう
③ 進んで表現しよう　④ 人の話を集中して聴こう
⑤ 忘れ物をなくそう

(2) 基礎学力の定着（学力向上プラン）

［最低学習時間の目安］（桜が丘中校区学園化構想）	1年生	2年生	3年生
	90 分	120 分	150 分

- 基礎学力や学習習慣の定着を目指した、iPad による生徒・家庭・学校が連携した家庭学習チェックシステムの導入
- 生徒の学びが授業や他へ繋がり、やって良かったと思えるように工夫・見取りをする
- ｅライブラリを活用した家庭学習の充実

《 ＰＢＬ（プロジェクト型学習） 》

ＰＢＬを取り入れた活動から、社会生活に必要な S-PDCA サイクルでの問題解決力やコミュニケーション力等を見に付ける。

《 教育活動の積極的ＤＸ化 》

一人１台 iPad を用いて、学習・生徒会活動・学級活動・部活動の改善を図る。職員や家庭においても、既存のモデルの在り方を変革させる。

目指す姿

未来へ一歩踏み出す生徒

掛川市立原野谷中学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

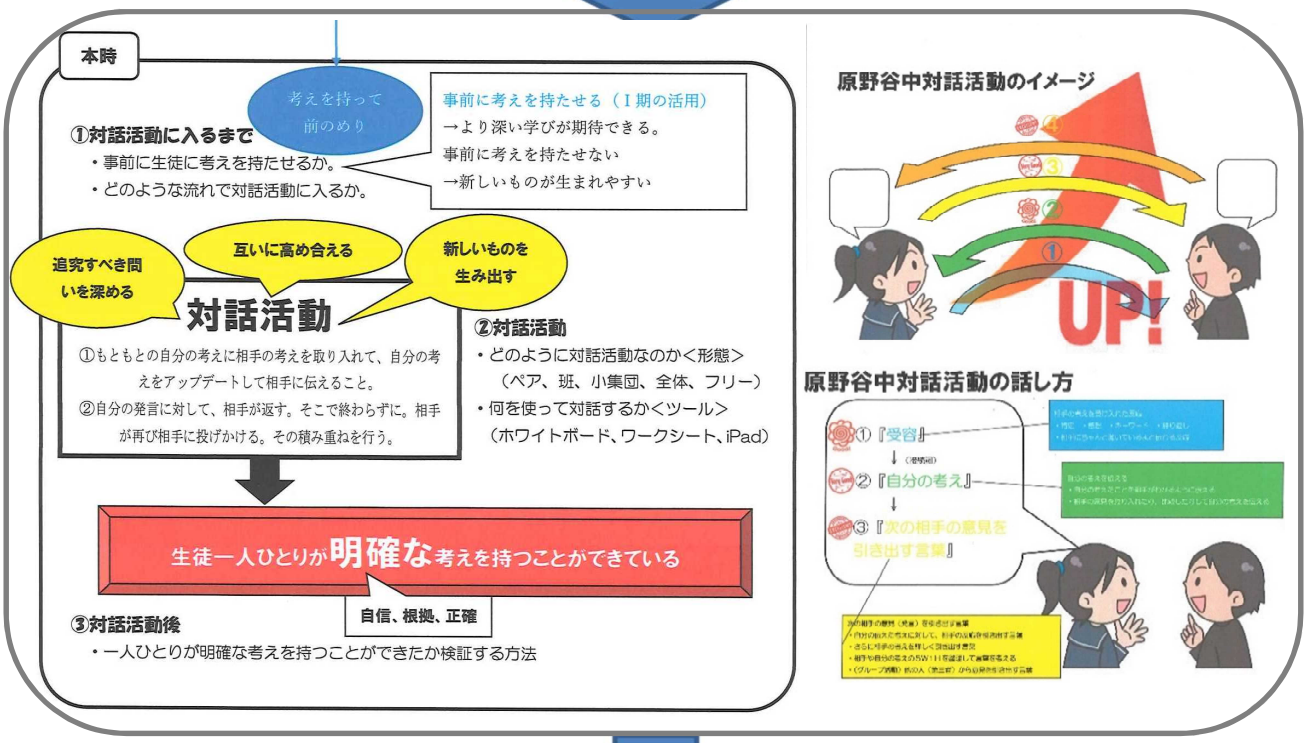
・純朴な心で、落ち着いた生活を送ることができる。
・小規模集団ならではの生徒相互の気心が通じているというよさがあり、諸活動に熱心に取り組むことができる。
・まじめな態度で授業に取り組む。
・周囲に温かい言葉がけや支援を進んで行うことができる。
・校外に出たときに主体的に行動できる自信と力を伸ばしたい。
・授業や行事において、対話やコミュニケーションによって深めたり新しい物を生み出すことが苦手である。

研修テーマ

自ら考え　高め合う　かしこい生徒

Ⅱ期「対話活動で互いを高め合える授業づくり」

研修の取組



特色ある学力向上への取組

対話活動を通して生徒が創る授業

①対話活動前

・事前に予告をして深め合う。

・予告なしで新しいものを生み出す。

②対話活動

・自分ごととして考えられる課題。

・どのようなツール（iPad）を使うか。

③対話活動後

・生徒一人ひとりが明確な考えを持つことができているか検証する。

コミュニケーション活動

毎週金曜日の朝にコミュニケーション活動を行うことにより、コミュニケーションの基礎となる対話のスキルを磨いている。

生徒が主体となったNIE活動

昨年度まで行っていたNIEをより生徒主体の活動にし、毎週火曜日に情報委員の生徒が全校に読んでほしい新聞記事を選び、全校のclassroomに投稿する。全校生徒は記事を読み、その記事を元にした投げかけに対してコメントする。記事の選定から全校の投げかけまでのすべてを生徒が主体となり取り組んでいる。

地域とともに生徒を育てる活動

○数学塾

地域の方と職員が一緒に、数学の基礎学力を身に付けたい生徒に個別指導を行っている。

○読み聞かせ

月１回地域の方による読み聞かせを行っている。

目指す姿

学校教育目標「夢を抱き　りりしく歩む　原中生」

自ら考え判断するかしこい生徒
心ゆたかでりりしい生徒
ねばり強く取り組むたくましい生徒

掛川市立北中学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

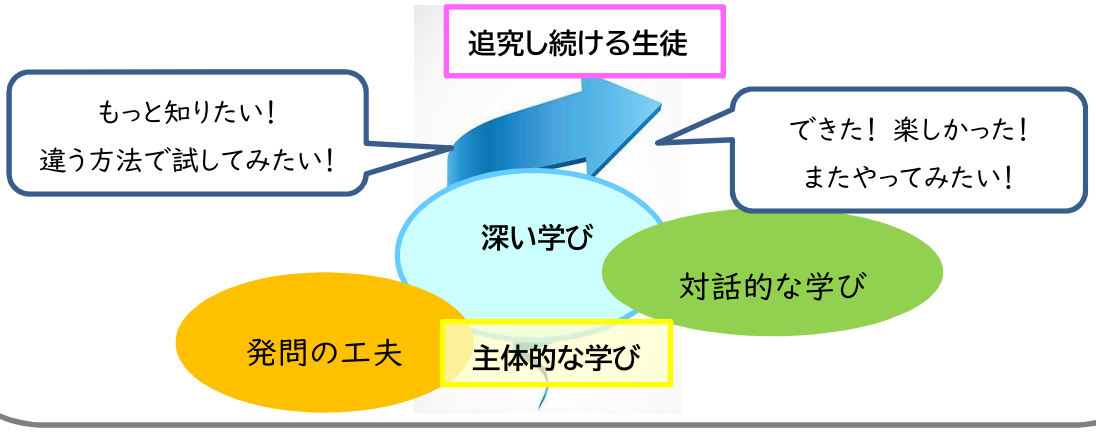
・素直で明るく、友達思いの生徒が多い。
・学習に対する意欲が全般的に高い。
・示されたことを素直に受け入れ行動できる生徒が多い。
・自ら考え行動し、自己の向上を図ることが苦手である。
・壁を乗り越える問題解決方法を見つけることが苦手である。
・地域のために、中学生として、何か役に立ちたいという思いをもっている。

研修テーマ

自ら気づき　考えを深め　追究し続ける生徒の育成

研修の取組

昨年度より、上記の研修テーマを掲げ、「主体的な学び」を引き出すために「主発問の工夫」を意識した授業改善に力を入れて取り組んできた。本年度は、さらに「深い学び」につなげるための手立ての工夫をすることにより、研修テーマの実現に近づけていきたい。特に、対話的な活動を通して、課題解決していく場面では、「子ども同士」「教師」「地域の人」「先哲の考え」など、人やものとの関わりを取り入れ（創合力）、自己の考えを深める場面（創像力）を取り入れたい。こうした学び合いにより得られた自己肯定感や学びの充実感が、次の学びに向かう原動力となり、追究し続ける生徒（創律力）の育成につながることを期待している。



特色ある学力向上への取組

【目指す授業の姿と家庭学習とのつながり】

生徒が学習の内容や課題を自分の事として捉え、社会、生活などと関連付けながら学びを深める授業づくりを目指す。

〇教員の授業力向上のための校内研修 → 一人一授業公開研修、異教科＆異年齢のグループ研修
どの教科でも共通実践するユニバーサルな授業づくり

〇教科横断的な関連を意識した授業づくり → 全教科のカリキュラム一覧表を参考に、自身の教科の学びと他教科との関連を見つける

〇基礎学力定着のための家庭学習 → 毎日2ページの自学ノートへの取組、英語と数学は毎日学習、自ら判断して学ぶ内容を見つける学習方法の工夫

〇iPad の活用 → 授業の振り返り場面、アンケート、調べ学習、積極的に家庭へ持ち帰り家庭での学習（e ライブラリーなど）に活用

【道徳科の授業「北中型道徳スタイル」】

・「導入」「中心発問の追究」「主体的な価値の自覚の振り返り」の3段階にて構成
・読み物などの資料を活用し、教材研究を行う
・個の振り返り時間の設定
・考え、議論する道徳を展開するための主発問の工夫
・生徒一人一人への良さを伸ばし成長を促すための評価方法を研究

【地域連携】

子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を共有し、地域の材を活用した「社会に開かれた教育」を実施

「さくら咲く学校」「森林組合」「しばちゃん牧場」「時の巣の森」「ならここの里」

【かけがわ型小中一貫カリキュラムの活用】

「冀北の教え 五か条」（北中学校区子ども育成支援協議会）に基づき、学校・家庭・地域が連携して、子どもたちを育成していく。挨拶運動や募金活動など、生徒が主体となって活動する。

目指す姿

①挑戦をいとわない生徒　②新たなレールを自ら切り拓いていける生徒
③失敗を恐れない生徒　④現状打破していこうとする生徒
⑤自ら自分に負荷をかけていける生徒　⑥自身でふさわしい行いをしていく生徒

郷土や学校に誇りを持ち「地域で光る北中生」の育成を目指す

掛川市立城東中学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

平成 31 年度から、城東学園の小中４校で研修主題を「対話を通して考えを深める授業」に統一し、共通の手立てをもって授業研究を進め、「対話」を中心に研修を行った。その結果、次のような実態が明らかになった。

〇小集団活動の形が定着し、自分の考えをもち、小集団活動で意見を発表するようになった。

〇一人では達成できなかった課題に対して、対話を通して解決していく姿が多く見られた。

▲小集団活動では、活発に意見を言えるが、全体での活動では発表する生徒が少ない。

▲話合いの目的が不明確で、本時の目標とずれた話合いになってしまう時があった。

研修テーマ

「対話を通して考えを深める授業」

～本時の目標を生徒と共有し、学習内容をアウトプットする活動を通して～

研修の取組

（１）「本時の目標を生徒と共有し、学習した内容をアウトプットする活動」の研修

①　生徒が本時で何がわかる（できる）ようになればいいのかを「学習課題」として明示して授業を行う。

②　授業の最後に、本時の目標に沿った振り返りを行う時間を確保する。

③　単元を通してつけたい資質・能力を授業者・生徒が共有し、見通しをもって学習を進められるようにする。

→　生徒が、本時や単元の目標に向けて自分の学びを調整していく「創律力」を育成する。

（２）「対話を通して考えを深める」ための単元構想づくり

単元の中で、考えが深まる「問い」や「対話」などの場面を設定する。多様な意見が出る問いの設定や他者との対話を通して、多様な考え方や視点に触れ、考えを深める。

→「創合力」・「創像力」を育成する場面を設定する。

（３）学びを深める小集団活動～児童生徒が関わって学んでいく土台づくり～

①　人数は３～４人　②　隊形はＴ字　③　ホワイトボード（iPad）の活用

（４）ICT の活用　iPad を活用してまとめをしたり、表現をしたりする。

（５）授業のユニバーサルデザイン～子どもが安心して授業に取り組むことのできる学習環境の創出

特色ある学力向上への取組

城東中サミット

ICT を活用して、全国の「城東中学校」と交流し、学校・地域の特色ある活動について紹介し合い、良い実践などを取り入れていく。

一人一台ｉＰａｄの活用

調べ活動や考えをまとめたり、発表したりする活動で iPad を活用し、学習への理解や考えが深まるような活用方法を研修していく。

学習環境づくり～学習の４原則～

授業における「学習の４原則」として、「タイム着席」「あいさつ」「自分の考えを伝える」「相手を大切に聞く」を設定する。学芸委員会が中心になって呼びかけをし、生徒自らが学習環境を整える努力をする。

小中のつながりを意識した授業

城東学園の一貫研修で、小学校の教員と「かけがわ型小中一貫カリキュラム」を参考にして、小学校の学習とのつながりを意識した授業づくりや、「コミュニケーション力」を育成する授業実践を連携して行う。

総合的な学習の時間

防災学習や職場体験、福祉学習など、城東や掛川など身近な地域を題材に課題解決学習を行う。学習を通して、地域や社会の中で生きるためのキャリアを育成する。

学校の学びと家庭の学びをつなぐ

「自学ノート」や「ワーク」などの課題以外に、iPad などの ICT を活用し、授業の学習とつながる家庭学習を取り入れていく。

目指す姿

学校教育目標	城東を愛し、未来をたくましく生き抜く子ども
重点目標	進んで挑戦する生徒 仲間と共に高めあう生徒

掛川市立大浜中学校
令和4年度　我が校のものがたり

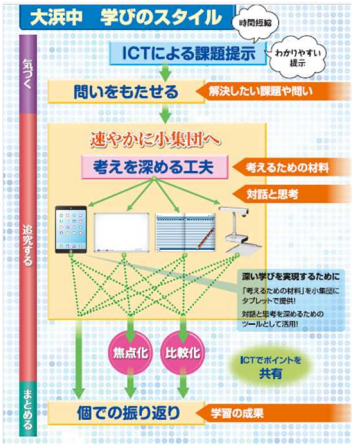
子どもの実態

○仲間の考えや表現に触れることで、思考を広げたり深めたりして、自分の考えを更によいものにしようとする姿勢が見られる。
○ipad の活用を生徒自身が考え、学校生活や家庭学習でも積極的に利用している。
△生徒自身が力が付いたことを実感できていない。（アンケート結果より）

研修テーマ

主体的・対話的で深い学びを目指して
～生徒自身が学びや変容を自覚できる授業づくり～

研修の取組



1　付けたい力を付けるための授業デザイン
(1)解決したい課題や問いの設定
(2)深め、広げる学び合いの時間の確保
①学習形態の工夫（小集団の活用）
②考えるための材料
③わからなさを大切にする教師の見取り
(3)付いた力を実感する振り返りの充実

2　ICT の効果的な活用
(1)学びの UD としての活用
(2)深め広げるためのツールとしての活用
・授業の目標に近づくための手段として生徒一人一人が効果的に活用する。
例：資料配付、考えの共有や比較、動画資料、シミュレーション、表現など
・力が付いたことを実感するために効果的に活用する。
例：スピーチや演技の動画撮影、学びの蓄積、単元における変化の比較
・個のニーズに合った活用方法を見いだす。（授業内での支援、家庭学習など）

3　中心授業研究の工夫
(1)学習科学の考え方を生かした授業研究会の実施
(2)単元構想を様々な角度から検証し、付けたい力を明確にして、資質・能力を発揮する姿が現れているかどうかを学びの姿から判断する。

特色ある学力向上への取組

①「深い学び」を実現するために単元構想に焦点を当てた校内研修を推進する。一人一公開授業を行い、互いの授業を参観することで、共通認識や、教科横断的な指導を図る。

②データに基づく授業診断
・授業によって生徒の学力が向上したかどうかを検証するために、学期ごとに授業評価アンケートを用いて、研修として総合的に分析を行い、授業改善を行う。

③対話を基軸にした授業づくり
・小集団を基本とし、「解決したい課題や問い」「考えるための材料」「対話と思考」「学習の成果」という４つの観点から、授業づくりを行う。
・生徒のわからなさや疑問を引き出し、そこからさらに学びを深める。

④対話を基軸にした学校づくり
総合的な学習の時間の取組（防災教育やキャリア教育）、特別活動における仲間づくりや自尊感情を高める支援など、すべての教育活動において重点目標である「対話」「協働」「学び合い」を実践する。

⑤家庭学習におけるＩＣＴの活用
・インターネットによる家庭学習サービス「ｅライブラリ」を使って、生徒が家庭で、復習や予想問題に取り組む。
・i-pad を持ち帰り、課題やレポートの作成・提出等に各家庭で取り組む。
・自らの学習データを集積し、自学に活かす。

⑥生徒の充実した学びのためのサポートとして学習者用デジタル教科書（理科・英語）を始めとした資料等の充実を図る。特別支援教育への対応など、学びのユニバーサルデザインとして、全ての生徒の学びを支援する。

目指す姿

・授業で付いた力を実感することで「もっと学びたい」「もっとできるようになりたい」「もっとわかるようになりたい」と思う生徒。
・仲間の考えや表現、わからなさや疑問に触れることで、思考を広げたり深めたりし、自分の考えを更によいものにしようとする生徒。

掛川市立大須賀中学校
令和4年度　我が校のものがたり

子どもの実態

・問いに対して素直に驚いたり、不思議に思ったりすることができる。
・小集団活動では、男女問わず対話ができる生徒が多い。
・地域行事への参加率が非常に高く、地域とのつながりが強い。
・学びを深めようとしたり、物事を追究しようとしたりする意識が若干弱い。

令和３年度の研修の成果と課題

【成果】
「共有の課題」や「ジャンプの課題」を組み込んだ授業づくりに取り組んだ結果、２つの異なる手立てが相乗効果をもたらす部分もあった。

【課題】
・課題の設定に難しさを感じる教員も少なくなく、授業の展開が難しくなる様子もあった。

研修テーマ

追究したい問いに対し、主体的に学ぶことができる生徒の育成

研修の取組

重点項目１　「追究したい問い」を提供するための単元構想づくり
→「追究したい問い」を提供するために、単元を貫く課題を意識した単元構想を作成する。
→社会（キャリア）との関連性が感じられる課題を設定する。

重点項目２　生徒の「主体的な学び」を引き出し次へとつなげる「学習の記録」
→学習活動の中で「学習の記録（まとめ・振り返り）」を残すことで、自己をみつめ、次へと学びをつなげていくことで、生徒の「主体的な学び」を引き出す。

本年度、校内の研修グループを**「個別最適な学び研究部」**と**「協働的な学び研究部」**の２部に分け、それぞれの部内で、**「教員は『追究したい問い』を提供しているか？」**、**「生徒は『主体的に学ぶこと』ができているか？」**という視点で授業改善を進めていく。

特色ある学力向上への取組

【おおすか型授業スタイルの確立】

生徒が資質・能力を発揮しながら主体的に学ぶことのできる授業づくりを進める。

①ＩＣＴ機器（一人一台 iPad）の活用による学びの工夫
- 導入や板書の時間短縮
- 意見の共有の活発化
- 情報の選択・活用力の向上
- 発信力の強化（プレゼンテーションなど）

②小集団活動を設定し、生徒同士の関わり合いを増やす。

③生徒の主体的な学びによって授業が展開されるような単元構想を練る。

④基礎学力向上のための家庭学習の充実を図る（予習、復習、e-ライブラリの活用など）。

【朝学習・コミュニケーション活動・ＮＥ活動（Newspaper in Education）】

①学習意欲の向上や基礎学力の定着を目指し、年間 25 回の朝学習を行う。

②対人関係スキル（聴く、話す）の基礎技術を身に付けさせるために、レベルごとに異なる会話的活動（１分間の話す・聞く・要約する）を週１回行う。

③年間 25 回、教科担任が選んだ新聞記事を読み感想を書く活動を行う。生徒の読解力の育成と書く力の向上を目指す。

【小中一貫カリキュラムへの取組】

①「挨拶、安全、読書・家庭学習」を一貫教育の共通実践項目とし、また、本年度の重点を「主体的な聞き手を育てる」として、各校・園の取組を報告し、課題を明確にする。

②年２回園小中合同研修会を開催し、一貫教育を進めていく。

目指す姿

追究したい問いに対し、主体的に深く学ぶことができる生徒